

現代文化研究科 現代文化専攻

| | |
|----------------------------|-------|
| 日本語特講Ⅰ(現代日本語論) [7A1001] | 1 |
| 日本語特講Ⅲ(日本語史論) [7A1002] | 2 |
| 日本文学特講Ⅰ(古代文学論) [7A1003] | 3 |
| 日本文学特講Ⅲ(中世文学論) [7A1004] | 4 |
| 日本文学特講Ⅴ(近代文学論) [7A1005] | 5 |
| 日本文学特講Ⅶ(現代文学論) [7A1006] | 6 |
| 日本文学特講Ⅸ(文学理論) [7A1007] | 7 |
| 日本文化特講Ⅰ(文化史論) [7A1008] | 8 |
| 日本文化特講Ⅲ(文化論) [7A1009] | 9 |
| 国語科教育特講Ⅰ [7A1010] | 10 |
| 日本語文化特別演習Ⅰ [7A1011] | 11~19 |
| 言語学特講Ⅰ(言語科学) [7A1020] | 20 |
| 言語学特講Ⅲ(応用言語学) [7A1021] | 21 |
| 言語学特講Ⅴ(対照言語学) [7A1022] | 22 |
| 言語学特講Ⅶ(英語学) [7A1023] | 23 |
| 欧米文学特講Ⅰ(近代イギリス文学) [7A1024] | 24 |
| 欧米文学特講Ⅲ(現代アメリカ文学) [7A1025] | 25 |
| 英語教育学特講Ⅰ [7A1026] | 26 |
| 英語教育学特講Ⅱ [7A1027] | 27 |
| 日本語教育学特講Ⅰ [7A1028] | 28 |
| 国際言語文化特別演習Ⅰ [7A1029] | 29~34 |
| マスメディア特講Ⅰ(情報社会) [7A1035] | 35 |
| マスメディア特講Ⅲ(マスコミ) [7A1036] | 36 |
| 情報管理特講Ⅰ(情報管理) [7A1037] | 37 |
| 情報管理特講Ⅲ(情報分析) [7A1038] | 38 |
| 情報管理特講Ⅴ(マーケティング) [7A1039] | 39 |
| 情報メディア特別演習Ⅰ [7A1040] | 40~43 |
| 日本語特講Ⅱ(現代日本語論) [7A2001] | 44 |
| 日本語特講Ⅳ(日本語史論) [7A2002] | 45 |
| 日本文学特講Ⅱ(古代文学論) [7A2003] | 46 |
| 日本文学特講Ⅳ(中世文学論) [7A2004] | 47 |
| 日本文学特講Ⅵ(近代文学論) [7A2005] | 48 |
| 日本文学特講Ⅷ(現代文学論) [7A2006] | 49 |
| 日本文学特講Ⅹ(文学理論) [7A2007] | 50 |
| 日本文化特講Ⅱ(文化史論) [7A2008] | 51 |
| 日本文化特講Ⅳ(文化論) [7A2009] | 52 |
| 国語科教育特講Ⅱ [7A2010] | 53 |
| 国語科教育特講Ⅲ [7A2011] | 54 |
| 日本語文化特別演習Ⅱ [7A2012] | 55~63 |

現代文化研究科 現代文化専攻

| | |
|----------------------------|--------|
| 言語学特講Ⅱ(言語科学) [7A2021] | 64 |
| 言語学特講Ⅳ(応用言語学) [7A2022] | 65 |
| 言語学特講Ⅵ(対照言語学) [7A2023] | 66 |
| 言語学特講Ⅷ(英語学) [7A2024] | 67 |
| 欧米文学特講Ⅱ(近代イギリス文学) [7A2025] | 68 |
| 欧米文学特講Ⅳ(現代アメリカ文学) [7A2026] | 69 |
| 英語教育学特講Ⅲ [7A2027] | 70 |
| 日本語教育学特講Ⅱ [7A2028] | 71 |
| 国際言語文化特別演習Ⅱ [7A2029] | 72～77 |
| マスメディア特講Ⅱ(情報社会) [7A2035] | 78 |
| マスメディア特講Ⅳ(マスコミ) [7A2036] | 79 |
| 情報管理特講Ⅱ(情報管理) [7A2037] | 80 |
| 情報管理特講Ⅳ(情報分析) [7A2038] | 81 |
| 情報管理特講Ⅵ(マーケティング) [7A2039] | 82 |
| 情報メディア特別演習Ⅱ [7A2040] | 83～86 |
| 日本語文化特別演習Ⅲ [7A3001] | 87～95 |
| 日本語文化特別演習Ⅳ [7A4001] | 96～104 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1001 | 科目名 | 日本語特講Ⅰ（現代日本語論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D2-6010 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 日本語慣用表現の体系と特徴について、「気」の慣用表現を対象として考察する。一次及び二次的言語資料から抽出された用例に基づき、個々の表現の意味用法を分析・記述しながら、発表・討議を行う。あわせて、「気」の概念に関する研究論文、その他の文献を読み進めながら、「気」の内実について考察する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 日本語の慣用表現を中心に、日本語表現を深く理解する 2) 日本語表現の背景にある日本文化の本質を見極める 3) 日本とは何かを考察し自分なりの日本語観・日本文化観を持つ |
| 評価方法 | 授業への参加状況(40%)、発表・質疑応答(30%)、レポートの内容(30%)を総合的に評価します。 |
| 備考 | 少し高度な語学力と言語学的な知識が必要です。興味をもって理解できれば、日本語慣用表現の特色の一端が見えてきます。フィードバックの方法については、授業の中で別途指示します。 |
| テキスト・教材・経費等 | オリジナルプリント資料 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:オリエンテーション 第2回:日本語表現の特質 第3回:日本語の感情表現 第4回:日本語の属性表現 第5回:「気」の慣用表現の定義と分類 第6回:「気」の慣用表現の意味用法①総論 第7回:「気」の慣用表現の意味用法②意味 第8回:「気」の慣用表現の意味用法③用法 第9回:「気」の慣用表現の意味用法④類義語 第10回:「気になる／気にする」の分析 第11回:「気が重い／気が滅入る」の分析 第12回:「気が気でない／気がせく」の分析 第13回:「④気がとがめる／気がひける／気がさす」の分析 第14回:「気」の表現と日本語文化 第15回:まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | この授業では、事前文献読み・実地踏査的な研究を重視します。受講者は、学部3年生対象の【日本語文化研修(シラバス参照)】への興味・関心も持ってください。平成32年2月19日(水)～21日(金)に実施する大和研修は、本授業の基礎ともなります。予習2時間、復習2時間厳守。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1002 | 科目名 | 日本語特講Ⅲ（日本語史論） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D2-6030 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 天理図書館蔵『竹柏園本平家物語』影印の翻刻を通して、日本語学研究に必要とされる基礎的な力を養う。竹柏園本は所謂「語り本」系平家物語のうち、鎌倉時代に成立した屋代本と室町時代に成立した覚一本の中間に位置すると言われている。竹柏園本の翻刻を通して、一番ダイナミックな変化があったとされる中世日本語に触れ、日本語の歴史に対する認識を深める。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマポリシーである「現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」に関連する科目です。 |
| 到達目標 | (1) 古典語文献の特性を理解し、日本語研究の史料として丁寧に読み扱うことができる (2) 日本語史分野の研究方法を使って史料を精読できる |
| 評価方法 | 授業の参加状況・課題への取り組み方(20%)、発表内容(50%)、期末レポート(30%)によって総合的に判断する。 |
| 備考 | 授業の開始時に輪読範囲の作業状況を確認し、授業内でフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 【テキスト】「天理図書館善本叢書45・46 平家物語 竹柏園本 上下」天理図書館善本叢書之部編集委員会編(天理大学出版部) 【参考書・参考資料等】「屋代本平家物語」春田 宣(角川書店)、「平家物語 屋代本高野本対照」麻原美子他(新典社)、「平家物語 覚一本 全」大津 雄一・平藤 幸(武蔵野書院)、「平家物語総索引」金田一 春彦・清水 功・近藤 政美(学習研究社) |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回: ガイダンス1: 講義内容・到達目標・評価方法の説明、対象とする文献についての概要 第2回: ガイダンス2: 発表方法の説明・翻刻練習(一裏から三表) 第3回: 受講生による翻刻(三裏から五表)・漢字伝来の歴史 第4回: 受講生による翻刻(五裏から七表)・正格漢文と和化漢文 第5回: 受講生による翻刻(七裏から九表)・和化漢文の用字・用語の変遷 第6回: 受講生による翻刻(九裏から十一表)・和化漢文の用字の位相差 第7回: 受講生による翻刻(十一裏から十三表)・漢文訓読に使われる記号 第8回: 受講生による翻刻(十三裏から十五表)・漢文助字の訓法 第9回: 受講生による翻刻(十五裏から十七表)・和文語と漢文訓読語 第10回: 受講生による翻刻(十七裏から十九表)・日本語の語彙の変遷 第11回: 受講生による翻刻(十九裏から二十一表)・動詞語彙の意味変化 第12回: 受講生による翻刻(二十一裏から二十三表)・形容詞語彙の意味変化 第13回: 受講生による翻刻(二十三裏から二十五表)・使役の助動詞の変遷と位相差 第14回: 受講生による翻刻(二十五裏から二十七表)・過去・完了の助動詞の変遷と位相差 第15回: まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 【予習】担当範囲の翻刻を課します。語句の意味や本文の内容を調べたり、他本の同文的箇所を調査しましょう。 【復習】授業内で指摘された点を振り返り、翻刻の修正を行ってください。 合計60時間以上をかけて、授業の準備学習を行いましょ。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1003 | 科目名 | 日本文学特講 I (古代文学論) | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D3-6010 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 『古今集注』の読解を通じて、古典文学の解釈のために必要な基礎力の育成を目指します。顕昭著の勅撰集注釈書である『古今集注』には、『古今和歌集』注釈の始発となる藤原教長注と、それを乗り越える形での顕昭注が付されています。実証的な顕昭の注釈を読み解くことを通じて、古代文学の聖典たる『古今和歌集』がどのように享受されたかについて考察します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1)『古今和歌集』収載歌および和歌史に関する知識を身に付けることができる 2)日本古典文学の研究に必要な基礎的読解力を身に付けることができる 3)日本古典文学の研究方法について理解を深めることができる |
| 評価方法 | 発表レポート(50%) 最終レポート(30%) 授業への参加状況(20%) |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜、プリントを配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 『古今集注』巻第一・五番歌の読解・解説 第3回 『古今集注』巻第一・九番歌の読解・解説 第4回 『古今集注』巻第一・一三番歌の読解・解説 第5回 『古今集注』巻第一・一五番歌の読解・解説 第6回 『古今集注』巻第一・一七番歌の読解・解説(前半) 第7回 『古今集注』巻第一・一七番歌の読解・解説(後半) 第8回 『古今集注』巻第一・二〇番歌の読解・解説 第9回 『古今集注』巻第一・二五番歌の読解・解説 第10回 『古今集注』巻第一・二七番歌の読解・解説 第11回 『古今集注』巻第一・二八番歌の読解・解説 第12回 『古今集注』巻第一・三〇番歌の読解・解説 第13回 『古今集注』巻第一・三九番歌の読解・解説 第14回 『古今集注』巻第一・四二番歌の読解・解説 第15回 『古今集注』巻第一・四五番歌の読解・解説 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 発表担当者は、オリエンテーションで示す発表の方法に基づいて、語釈・通釈など担当範囲の調べを事前に行ってください(予習)。また質疑の内容をふまえて、必要事項を確認し、資料の修正を行ってください(復習)。参加学生は、あらかじめ次回範囲を通読(予習)した上で、解釈上の疑問点などを発表担当者に質問してください。また授業でのやりとりをふまえて気付いたこと・考えたことを、ノートにまとめてください(復習)。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1004 | 科目名 | 日本文学特講Ⅲ（中世文学論） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D3-6030 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 『袖中抄』の読解を通じて、古典文学の解釈のために必要な基礎力の育成を目指します。顕昭著の歌語注釈書である『袖中抄』には、『万葉集』以来の歌語、とりわけ和歌実作を行う上で必須の知識となる難義を含んだ語が取り上げられています。実証的な顕昭の注釈を読み解くことを通じて、中世の歌人たちの和歌に対する姿勢について考察します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 歌語および和歌史に関する知識を身に付けることができる 2) 日本古典文学の研究に必要な基礎的読解力を身に付けることができる 3) 日本古典文学の研究手法について理解を深めることができる |
| 評価方法 | 発表レポート(50%) 最終レポート(30%) 授業への参加状況(20%) |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜、プリントを配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 1「ひおりの日」 第3回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 2「おにのしこ草」 第4回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 3「あぢむらこま」 第5回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 4「ひちかさ雨」 第6回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 5「もずの草ぐき」 第7回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 6「かひやがした」 第8回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 7「おきつ白波たつた山」 第9回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 8「くものはたて」 第10回 『袖中抄』巻第一の読解・解説 9「あけのそほ舟」 第11回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 10「わがなもみなど」 第12回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 11「たちつくりえ」 第13回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 12「七夕つめ」 第14回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 13「とりがなくあづま」 第15回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 14「いそのまゆ」 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 発表担当者は、オリエンテーションで示す発表の方法に基づいて、語釈・通釈など担当範囲の調べを事前に行ってください(予習)。また質疑の内容をふまえて、必要事項を確認し、資料の修正を行ってください(復習)。参加学生は、あらかじめ次回範囲を通読(予習)した上で、解釈上の疑問点などを発表担当者に質問してください。また授業でのやりとりをふまえて気付いたこと・考えたことを、ノートにまとめてください(復習)。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1005 | 科目名 | 日本文学特講Ⅴ（近代文学論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D3-6050 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 近代文学研究の出発点となる本文テキストがいかんして成立しているのかについて考察し、作品の解釈にも関わっていく可能性について考察する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連しています。 1、現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2、自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3、知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 文学作品を自分で鑑賞・批評できる。文学的表現を味わうことができる。 |
| 評価方法 | 演習発表(60%)、小レポート(20%)、参加状態(20%)により総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題・小レポート等についてのフィードバックは担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「直筆で読む「坊っちゃん」」(集英社新書ヴィジュアル版) |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <p>近現代文学についても、当然ながら本文についての手続きがなされているのであるが、活字になった本を手にする現代の読者には意識されにくいことである。この授業では直筆原稿を手軽に見ることができる夏目漱石の「坊っちゃん」を例に、近現代文学作品の本文がいかんして成立するのかについて考察する。また作品の解釈について影響するのかについて考える。受講者は担当箇所を決め、順番に発表してもらう。</p> <p>第1回：オリエンテーション・授業計画について 第2回：直筆原稿について① 第3回：直筆原稿について② 第4回：直筆原稿を読む① 第5回：直筆原稿を読む② 第6回：直筆原稿を読む③ 第7回：直筆原稿を読む④ 第8回：直筆原稿を読む⑤ 第9回：直筆原稿を読む⑥ 第10回：直筆原稿を読む⑦ 第11回：直筆原稿を読む⑧ 第12回：直筆原稿を読む⑨ 第13回：直筆原稿を読む⑩ 第14回：直筆原稿を読む⑪ 第15回：補足発表・まとめ</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 調査・実習 その他(グループ・ディスカッション デイバート) |
| 準備学習(予習・復習) | 発表資料の準備、それに必要な先行研究の調査等。(自習総時間60時間) |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1006 | 科目名 | 日本文学特講Ⅶ（現代文学論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D3-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 13人の近・現代作家を取り上げ、各作家の特色・文学史的な位置付けを見ていきます。近・現代文学展開の軌跡を追うのがねらいです。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ○日本近・現代文学の流れが把握できる。 ○関連資料等の分析（適切な利用）ができる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(20%)と討議における質疑応答(20%)、レポート(60%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | レポート課題等のフィードバックについては授業の中で説明をします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜プリントを配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回: ガイダンス 第2回: 谷崎潤一郎 第3回: 井伏鱒二 第4回: 川端康成 第5回: 太宰治 第6回: 三島由紀夫 第7回: 安部公房 第8回: 遠藤周作 第9回: 大江健三郎 第10回: 村上春樹 第11回: 村上龍 第12回: 山田詠美 第13回: よしもとばなな 第14回: 川上弘美 第15回: まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 取り上げる作家の作品を出来るだけ多く読みましょう。そして、図書館等を利用し、研究書・関連資料等に当たってください。また、学んだことをもとに、自分の研究の修正を行いましょう。15回の授業を通して、計120時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|-------------------------------|
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1007 | 科目名 | 日本文学特講Ⅹ (文学理論) | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D3-6090 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 近現代の主要な短編小説を、ジェラール・ジュネットの文芸理論に依拠して読み解いていきます。必要に応じて、ロラン・バルト、ジャック・デリダ、ジュリア・クリステヴァなどの理論にも触れます。明治から昭和までの多様な作家のテキストに触れることで、文学史の理解を深めることも目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマ・ポリシーのうち、本授業で身につけることを目指す知識や能力は以下のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・日本および外国の文芸理論を理解し、自分の研究に応用することができる ・近現代の主要な小説を読み解く作業を通して、近現代文学史についての専門的識見を養い、それについて独自の主張を展開することができる |
| 評価方法 | 期末レポート(60%)、授業内課題(30%)、授業参加の積極性(10%) |
| 備考 | ・参考書・参考資料等 ジェラール・ジュネット『物語のディスクール』花輪光・和泉涼一訳(書肆風の薔薇、1985年9月) ・期末レポートについてはコメントを附し試験期間中に返却します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 松本和也編『テキスト分析入門 小説を読むための実践ガイド』(ひつじ書房、2016年10月) テキストに所収されていない小説についてはプリントを配布する。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 夏目漱石「夢十夜」ーロシア・フォルマリズムの方法に依拠してー 第3回 森鷗外「高瀬舟」(1)作者の意図を超えて 第4回 森鷗外「高瀬舟」(2)焦点化 第5回 芥川龍之介「南京の基督」(1)語りの時間 第6回 芥川龍之介「南京の基督」(2)錯時法 第7回 谷崎潤一郎「刺青」 第8回 葛西善蔵「哀しき父」 第9回 志賀直哉「城の崎にて」 第10回 小説の筋論争 第11回 岡本かの子「老妓抄」(1)語りの水準 第12回 岡本かの子「老妓抄」(2)自由間接話法 第13回 太宰治「桜桃」(1)メタフィクション 第14回 太宰治「桜桃」(2)疎外された者たちのための文学 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 【予習】(毎回平均2時間) 扱う作品とテキストの該当部分を事前に読んでください。 【復習】(毎回平均2時間) 授業で扱った作品が文学史の中でどのように位置づけられているか、図書館等で資料を調べてください。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|-----------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A1008 | 科目名 | 日本文化特講 I (文化史論) | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D4-6010 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 古代から中世初頭における中国文化・仏教文化の伝来と受容について学び、日本文化に及ぼした影響について考究します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1. 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門知識・技能 2. 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3. 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 外来文化のもとで形成された、日本文化の諸相を理解することを目指します。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況および意欲(20%)と、レポート(50%)ならびに発表(30%)により総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題やレポートを実施した際には、その都度返却し、解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜プリントを配付します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 東アジアの中の日本 第2回 飛鳥文化と白鳳文化① 第3回 飛鳥文化と白鳳文化② 第4回 遣唐使と天平文化① 第5回 遣唐使と天平文化② 第6回 正倉院の世界 第7回 弘仁・貞観文化 第8回 最澄と空海 第9回 平安文学と異国 第10回 国風文化と仏教① 第11回 国風文化と仏教② 第12回 道教と陰陽道① 第13回 道教と陰陽道② 第14回 平安時代末期の文化 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメントペーパー，課題発見学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 適宜事前に閲覧すべき専門書を提示しますので、日本文化の特質を考えてみましょう。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1009 | 科目名 | 日本文化特講Ⅲ（文化論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D4-6030 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 考古遺物の見方およびそれらを用いた過去の生活文化の復元方法について学びます。対象とする時期は旧石器時代から古代(奈良・平安時代)が中心で、一部中世も扱います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻の以下のディプロマ・ポリシーに関連します。 「現代文化専攻いずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」 「自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果」 「知識基盤社会の発展に貢献できる実践力」 |
| 到達目標 | 考古遺物の作られ方や見方、文章や図面の表現の方法について理解できるようになる。 考古資料から歴史を復元する方法を理解できるようになる。 |
| 評価方法 | 参加状況(10%)、レポート(50%)、課題発表(40%)により総合的に判断します。 |
| 備考 | 『図解技術の考古学』(潮見浩, 有斐閣)を基本文献とするので、本格的に勉強しようと思う人は購入することをお薦めします。 課題等のフィードバックは教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | とくに定めません。適宜資料を配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 土器・陶器① 第3回 土器・陶器② 第4回 土器・陶器③ 第5回 埴輪① 第6回 埴輪② 第7回 瓦① 第8回 瓦② 第9回 土製品①—土偶— 第10回 土製品② 第11回 打製石器 第12回 磨製石器・石製品① 第13回 石製品②—碧玉製腕飾り類— 第14回 骨角器・貝製品 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習 その他(ディベート) |
| 準備学習(予習・復習) | 予習として、シラバスを参照して、授業内容に関連する事柄をあらかじめまとめておきましょう。また、復習として、授業で学んだ内容を図書館の書籍などで確認し、学びの定着を図ってください。1回の授業につき、毎回4時間以上の予習・復習を行ってください。図書館に所蔵されている考古学関連の図書を大いに活用しましょう。とくに写真が多数掲載されているものが便利です。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7A1010 | 科目名 | 国語科教育特講 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D1-6010 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 国語科の「書くこと」の基本的な理論的知識と実践の力を身につけます。 中・高等学校教諭専修免許状(国語)の取得をめざした、高度な専門的知識・技術を育成する授業です。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・「書くこと」の指導と評価の課題を、複数の観点で整理して理解することができる。 ・「書くこと」の単元、学習者の作品や反応を分析、評価する方法を、複数の観点で整理して理解することができる。 |
| 評価方法 | 討議(20%)、授業参加状況(30%)、レポート(50%)によって評価します。問題意識に沿った積極的な予習・復習を期待します。 |
| 備考 | 授業時に課題等のフィードバックがあります。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業時に指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:オリエンテーション 「書くこと」の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」 第2回:書く行為とは 第3回:「書くこと」の概観(1)昭和前期まで 第4回:「書くこと」の概観(2)昭和前期以後 第5回:「書くこと」の課題(1)目標・内容 第6回:「書くこと」の課題(2)方法・学習者 第7回:「書くこと」の課題(3)他者評価 第8回:「書くこと」の課題(4)自己評価 第9回:「書くこと」の単元の分析(1)説明文・意見文 第10回:「書くこと」の単元の分析(2)創作文 第11回:「書くこと」の単元の評価と指導の改善 第12回:「書くこと」の単元作成の実際 第13回:学習者の作品の評価と指導 第14回:学習者の反応の評価と指導 第15回:「書くこと」の単元の評価と指導の改善の実際 定期試験 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・授業時に指示します。 ・授業で学習した観点を用いて、雑誌や実践書の実践、自身の実践を分析・検討しましょう。 【2~4回】図書館を利用して概説書を読み、ノートに知識を整理しましょう。 【5~11回】実践書や実践論文を複数集め、授業で学習した方法も用いて、分析・検討しましょう。 【12~14回】自身の実践の指導案を整理し、授業で学習した方法も用いて、改善しましょう。 自主学習総時間:60時間以上 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1011 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文のテーマに関して、基礎的な研究を行う。先行研究(文献)の調査と整理、関連資料の収集と整理を行いながら、考察をすすめ、課題を発見し併せて研究方法を検討することを目的とする。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 自分で問題点を発見し、その位置づけを確認した上で仮説を立て、検証することで、体系性と独創性を兼ね備えた研究の基礎力を養う 2) 日本とは何かを考察することで、自分の日本語観・日本文化観を持つ |
| 評価方法 | 授業への参加状況(40%)、発表・質疑応答(30%)、レポートの内容(30%)を総合的に評価する。 |
| 備考 | 課題に対するフィードバックは、授業や面談を通して行います。 。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に指定しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:オリエンテーション 第2回:研究テーマの確認 第3回:研究テーマの確認 第4回:研究テーマの決定 第5回:先行研究(文献)の調査と整理 第6回:先行研究(文献)の調査と整理 第7回:先行研究(文献)の調査と整理 第8回:先行研究の考察及び研究テーマの修正 第9回:中間まとめ 第10回:関連資料の収集と整理 第11回:関連資料の収集と整理 第12回:関連資料の収集と整理 第13回:関連資料の考察及び研究テーマの修正 第14回:期末まとめ 第15回:研究テーマに関する小論文作成 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー, 課題解決学習, プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 研究に関する事前配付文献資料を予習・復習では十分に読み込み、消化すること。体系的かつ独創的な研究ができるように、日常生活も含めて日々の体験からも学んでください。それらの活動を通して、高度な日本語能力を身に付けながら、豊かな想像力や創造力を磨き、結果としてすべてを自己の研究に集約していきましょう。計60時間以上行ってください。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1012 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文で扱うテーマを中心に、研究します。各自の研究テーマに関連する先行研究の収集と問題点の整理・分析を行います。さらに基本文献を収集し、整理・分析を通して、各自の研究の観点や方法を見出すことを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1. 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門知識・技能 2. 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3. 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 2年次において、円滑に修士論文を作成できる状態にしておくことが目標です。具体的には、(1)先行研究の収集と問題点の整理を行うことができるとともに、(2)各自見出した研究の観点や方法により、研究計画を立て、自主的に研究を進めることができることを目指してほしいと思います。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況・意欲(20%)および研究テーマに基づく発表内容(30%)・レポート(50%)により総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題やレポートを実施した際には、その都度返却し、解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に指定しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 各自の研究テーマに関連する先行研究や基本文献を広く収集し、整理を行います。先行研究は批判的に読み取り、各自の研究に必要な観点や方法の修得に努めます。そのうえで、修士論文の執筆に向けた研究計画を立て、自主的に研究が進められるよう、研究テーマに基づく発表を行います。 第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマの検討 第3回 先行研究の収集 第4回 先行研究の分析① 第5回 口頭発表① 第6回 先行研究の分析② 第7回 口頭発表② 第8回 研究テーマの設定 第9回 研究計画の検討 第10回 研究計画の決定 第11回 研究対象基本文献の分析① 第12回 口頭発表① 第13回 研究対象基本文献の分析② 第14回 口頭発表② 第15回 まとめ 今後の課題の確認 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 予習として、発表資料を作成するための準備作業、復習として、ディスカッションによる意見をふまえた発表資料の修正などを行って、学びの定着を図ってください。卒業論文の成果を活かし、さらに研究テーマに関する考察を深められるよう、積極的にいろいろな研究に目を向けてください。そこから自身の研究目的の明確化や、各自の歴史観の構築につなげていきましょう。先行研究・基本文献を分析・批判するスキルを身につけましょう。図書館や博物館の積極的な活用はもちろんのこと、教員に積極的に質問しましょう。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1013 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 各自の研究テーマに関連する先行研究の調査収集と整理を行います。さらに先行研究の検討を行い、各自の研究の観点や方向性を見出すことを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻の以下のディプロマ・ポリシーに関連します。 「現代文化専攻いずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」 「自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果」 「知識基盤社会の発展に貢献できる実践力」 |
| 到達目標 | ・先行研究の調査収集と整理を行うことができるようになる。 ・見出した研究の観点や方向性に基づき、研究計画を立てて自主的に研究を進めることができるようになる。 |
| 評価方法 | 研究テーマに基づく発表(40%) 研究への取り組みの姿勢(40%) 課題レポート(20%) |
| 備考 | 課題等のフィードバックは教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | とくに指定しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション-論文とは- 第2回 修士論文作成の意義 第3回 修士論文作成の方法 第4回 テーマの検討 第5回 研究史の検討①-文献の収集- 第6回 研究史の検討②-問題点の整理- 第7回 テーマの設定 第8回 資料の収集①-報告書- 第9回 資料の収集②-報告書以外の文献資料- 第10回 資料の整理①-地名表の作成- 第11回 資料の整理②-集成表の作成- 第12回 資料の分類 第13回 資料の分析 第14回 論文構成の検討 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習 課題解決学習 調査・実習 プレゼンテーション その他(ディベート) |
| 準備学習(予習・復習) | 先行研究の検討は自己の研究を進める上で大変重要です。あらかじめ代表的な先行研究の概要や意義、問題点等をまとめておき、授業時に発表・報告できるようにしてください。1回の授業につき、毎回4時間以上の予習・復習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1014 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 中学校・高等学校での国語科の授業に関して、実践研究の基礎的な力を育成するための授業です。自身の問題意識をもとに、研究課題と研究方法を明確にしていきます。その過程で実践資料や専門文献を講読する力を育成します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・問題意識に即して、具体的な研究課題と研究方法を明らかにすることができる。 ・必要な文献を講読する方法を身につけることができる。 |
| 評価方法 | 討議(20%)、授業参加状況(30%)、レポート(50%)によって評価します。問題意識に沿った積極的な予習・復習を期待します。 |
| 備考 | 授業時に課題等のフィードバックがあります。 |
| テキスト・教材・経費等 | 資料を配布します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 問題の探究(1) 学習者の実態分析 第3回 問題の探究(2) 学習者の課題の把握 第4回 問題の整理(1) 先行研究の概要の把握 第5回 問題の整理(2) 専門用語の整理 第6回 研究課題の設定 第7回 問題の探究(3) 先行研究の講読方法 第8回 問題の探究(4) 先行研究の検討方法 第9回 問題の探究(5) 先行研究の整理方法 第10回 問題の整理(3) 実践上の課題の探索 第11回 問題の整理(4) 実践上の課題の把握 第12回 研究課題の再設定 第13回 研究方法の把握 第14回 研究計画の設定と吟味 第15回 研究構想発表 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・自身や他者の実践を観察、記録し、学習課題や学習者の反応に即して実践上の課題を把握する経験を重ねましょう。 ・自主学習総時間:60時間以上 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1015 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 各自の研究テーマに関連する先行研究の調査・収集と整理を行います。さらに先行研究の批判を通して、各自の研究の観点や方法を見出すことを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 先行研究の調査・収集と整理を行うことができる 2) 見出した研究の観点や方法に基づき、研究計画を立てて自主的に研究を進めることができる |
| 評価方法 | 研究対象作品の分析発表(30%) 研究テーマに基づく発表(40%) 最終レポート(30%) |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に指定しません。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 各自の研究テーマに関連する先行研究を広く調査・収集し、それらの整理を行います。そして重要な先行研究について批判的に読み取り、各自の研究に必要な観点や方法の獲得に努めます。その上で、修士論文の執筆に向けた研究計画を立て、自主的に研究が進められるよう、各自の研究テーマに基づく発表を行います。 第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマの検討 第3回 先行研究の調査・収集 第4回 先行研究の分析 第5回 研究テーマの設定 第6回 研究計画の検討 第7回 研究計画の決定 第8回 研究対象作品の分析① 第9回 調査に基づく口頭発表① 第10回 研究対象作品の分析② 第11回 調査に基づく口頭発表② 第12回 研究対象作品の分析③ 第13回 調査に基づく口頭発表③ 第14回 研究テーマの再検討 第15回 まとめ 今後の課題の確認 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 予習として、発表資料を作成するための準備作業、復習として、ディスカッションによる意見や添削をふまえた新たな調査や発表資料を修正する作業を行って、学びの定着を図ってください。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 卒業論文の成果を活かし、さらに研究テーマに関する考察を深められるよう、積極的にいろいろな研究に目を向けてください。そこから自身の研究目的の明確化につなげていきましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1016 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文のテーマ設定に向けて、基礎的な研究を行います。関連資料の収集・分析、先行研究の調査・検討などを通じて問題の発見や研究方法を習得するのがねらいです。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ○問題を正しく設定することができる。 ○問題解決のための正しいアプローチ方法を見つけることができる。 ○関連資料・先行研究等の分析(適切な利用)ができる。 ○分析結果を的確にまとめ、文章化できる。 ○計画に基づき研究を進めることができる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(20%)、討議における質疑応答(20%)、レポート(60%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | レポート課題等のフィードバックについては授業の中で説明します。 国内外の学会、研究発表会等へ積極的に参加をして下さい。 |
| テキスト・教材・経費等 | 研究テーマに沿った文献を適宜紹介・配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回: ガイダンス 第2回: 問題の設定① 第3回: 問題の設定② 第4回: 問題解決のためのアプローチ① 第5回: 問題解決のためのアプローチ② 第6回: 先行研究の分析① 第7回: 先行研究の分析② 第8回: 作品読解① 第9回: 作品読解② 第10回: 作品読解③ 第11回: 中間報告 第12回: 作品読解④ 第13回: 作品読解⑤ 第14回: 作品読解⑥ 第15回: まとめ、論文計画の見直し、修正 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 関連文献の読み込み、作品読解、レジュメ作成といった段階を踏まえ、論文を作成します。15回の授業を通して、計120時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|-------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A1017 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 全15回にわたって、川端康成「水晶幻想」を読解し、先行研究を整理します。必要に応じて、「針と硝子と霧」など、関連する他の小説にも触れます。そうした作業を通して、作家論的視点、テキスト論的視点、同時代言説の参照など、多様な分析方法を習得します。授業内で作品本文や先行研究を読む作業と、先行研究に基づいてレジュメを作成し発表する作業とを交互に繰り返し、近代文学研究の方法を実践していきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマ・ポリシーのうち、本授業で身につけることを目指す知識や能力は以下のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・近代文学研究の多様な方法を深く理解することができる ・先行研究を批判的に参照しつつ、独自の読解を展開できる |
| 評価方法 | 口頭発表40%、レポート(口頭発表資料を兼ねる)40%、授業参加の積極性(質問・意見等の発言)20% |
| 備考 | ・口頭発表の内容について授業内でコメントします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 石川巧・吉田秀樹編『川端康成作品論集成 第二巻 一浅草紅団・水晶幻想-』(おうふう、2009年) |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 川端康成の生涯について調査する 第3回 口頭発表 第4回 「水晶幻想」を読む 第5～14回 先行研究を批判的に読む 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 発表者は事前に先行研究を調査し、レジュメを作成してください。発表者以外の受講者も、事前に先行研究を熟読してください。 【自学自習総時間】60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1018 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文のテーマに関して、基礎的な研究を行う。作品の分析、関連資料の収集と整理、先行研究論文の検討を通して問題点の発見、研究の方法について考察する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連しています。 1、現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2、自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3、知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ○修士論文のテーマに沿った基本的資料を集める。 ○基本的資料を読解・批評する目をもつ。 |
| 評価方法 | 演習発表(50%)、レポート(30%)、参加状態(20%)により総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題・小レポート等についてのフィードバックは担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 研究テーマに従って、各自用意する。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 各自が計画をたて、それによって演習を進めて行く。 第1回 オリエンテーション・発表計画 第2回 修士論文の構成について(構想)① 第3回 修士論文の構成について(構想)② 第4回 修士論文の構成について(構想)③ 第5回 修士論文の構成について(計画)① 第6回 修士論文の構成について(計画)② 第7回 修士論文の構成について(計画)③ 第8回 修士論文の構成について(構想・計画)補足発表、概括 第9回 作品分析① 第10回 作品分析② 第11回 作品分析③ 第12回 作品分析④ 第13回 作品分析⑤ 第14回 作品分析⑥ 第15回 補足発表、まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 調査・実習 その他(グループ・ディスカッション) |
| 準備学習(予習・復習) | 自らの研究テーマが先行研究のなかでどのような位置にあるのか、しっかりと見極めるようにしてください。その上で、自らの研究テーマを精力的に深め修士論文につなげていってください。(自習総時間60時間) |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1019 | 科目名 | 日本語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 受講生一人ひとりが興味のあるテーマを設定し、研究発表を行います。先行研究を熟読し、日本語研究の中での位置づけを考えながら、研究を推敲してもらいます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 関連する現代文化専攻のディプロマポリシーは次の3点です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | (1)日本語史上の課題を自ら発見し、それを明らかにする目的と意義を論理的に説明できる。 (2)課題解決に必要な情報を収集し、批判的・分析的に整理・考察することができる。 (3)資料や先行研究から得た成果を再構成し、分かりやすく資料化したり発表したりできる。 |
| 評価方法 | 授業参加状況(15%)・課題への取り組み方(45%)・発表内容(40%)によって総合的に判断します。 |
| 備考 | 発表準備を課題とし、授業内でフィードバックを行います。 専門外の授業や研究会に出たり、学会に参加することは研究にとって大きな刺激です。積極的に学問の場に参加してください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業内で適宜紹介します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 受講生による発表1 第3回 受講生による発表2 第4回 受講生による発表3 第5回 受講生による発表4 第6回 受講生による発表5 第7回 受講生による発表6 第8回 受講生による発表7 第9回 受講生による発表8 第10回 受講生による発表9 第11回 受講生による発表10 第12回 受講生による発表11 第13回 受講生による発表12 第14回 受講生による発表13 第15回 学修のまとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 【予習・復習】各自の興味に基づいて、先行研究や資料の読み込みを行ってください。また、授業内の討議によって得た視点を、積極的に反映させてください。 図書館をどんどん利用し、合計60時間以上をかけて、授業の準備学習を行いましょう。また、質問があれば、研究室を訪ねてください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1020 | 科目名 | 言語学特講 I (言語科学) | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D7-6010 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 人間が経験的に高めていった認知能力が、どのように言語の原理・原則に投影されているかを、特に言語に内在する<身体性>(embodiment)に着目して講義する。語の多義性、文法に見る時制、相、モダリティ、直示性、談話構造に見るスキーマやシナリオ、更には文化様式等を取り上げる。身体性を柔軟に拡張していく人間の認知能力、メタファーのメカニズムを特に深めていきたい。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 『高度な言語コミュニケーション技術の修得』や『英語教員や日本語教員をめざした高度な専門的知識・技術の養成』という教育目標に関連しています。 |
| 到達目標 | 人間の認知能力の発展と言語に内包される原理・原則の関係を理解を深めることで、英語習得の効率を高めると同時にその定着を促すことができる。 |
| 評価方法 | レポートと参加状況により評価する。 |
| 備考 | 言語の認知能力を問い直す中で、英語と日本語の接点と相違点に関心を持ち、英語学習を活性化し、かつ深めていくことに役立ててほしい。 |
| テキスト・教材・経費等 | 谷口一美『認知言語学』ひつじ書房、2006。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の認知能力とは 2. 認知能力の発達と言語習得 3. 認知能力の発達と第二言語習得 4. 語の多義性(歴史的立場から) 5. 語の多義性(教示的立場から) 6. 認知と時制 7. 認知と相 8. モダリティ 9. 認知と直示性 10. 認知と談話(スキーマ) 11. 認知と世界 12. 認知言語学と文学(小説) 13. 認知言語学と文学(詩) 14. 認知言語学と教育 15. 講義のまとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 認知言語学についてその基礎的な学習を行うので、「イメージを使った文法学習」、「感覚からとらえる英文法」など、既に出版されている同種の本を1、2読んでイメージ化してほしい。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1021 | 科目名 | 言語学特講Ⅲ (応用言語学) | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D7-6030 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | This course aims to sensitize students to discourse and pragmatic features in spoken communication. Discourse and pragmatics are the study of how we use language in real contexts to mean much more than we say! This course will both improve your English |
| ディプロマポリシーとの関連 | Educational goals are to help nurture the ability to discern and understand the language and culture of English, including the ability to see how culture influences communication patterns and styles, and to apply this knowledge for the betterment of society |
| 到達目標 | To improve your English reading ability and understanding of the basic pragmatic functions of spoken English and Japanese leading to a better understanding of how humans use language to communicate. |
| 評価方法 | Class preparation & participation, project reports, open-book exam. |
| 備考 | If the Yule textbook is too difficult, we will read the 田中 textbook first semester and use Yule in the fall semester. |
| テキスト・教材・経費等 | Pragmatics by George Yule. Oxford University Press, 1999. プラグマティクス・ワークショップ:身のまわりの言葉を語用論的に見る。田中典子。春風。2006年。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | We will cover approximately one chapter of the textbook per week. For each chapter, you will complete a task sheet that will be the basis for class discussion. You will also be expected to complete a small project in which you analyze conversational English from movies. The last few weeks will be devoted to completing your analysis project. Details in class. Textbook Chapters: 1) Definitions & background 2) Deixis & distance 3) Reference & inference 4) Presupposition & entailment 5) Cooperation & implicature 6) Speech acts & events 7) Politeness & interaction 8) Conversation & preference structure |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | Preview: Read chapters as well as you can before class, but don't expect to understand 100 percent the first time. List and study key vocabulary and expressions and be ready to ask questions about what you do not understand in class. Review: Take notes in |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1022 | 科目名 | 言語学特講Ⅴ（対照言語学） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D7-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 認知構文論という枠組みの中で、日本語の構文を中心に、英語と比較・対照していき、両言語の類似点・相違点を見ていく。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 欧米言語文化研究の目標である『高度な言語コミュニケーション技術の修得』に関連しています。 |
| 到達目標 | この授業では日本語と他言語を比較していきます。具体的には、日本語と他言語を言語類型論の点を見ていき、異なった言語を比較していく力を養っていく。 |
| 評価方法 | 平常点、発表、レポートによる評価 |
| 備考 | 毎回ハンドアウトを作成し、発表してもらいます。 |
| テキスト・教材・経費等 | 『認知構文論』山梨正明 大修館書店 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学とは 第3回：言語の中のゲシュタルト性 第4回：言語と知覚 第5回：認知文法概説 第6回：認知文法の言語観 第7回：構文スキーマ 第8回：構文のネットワークモデル 第9回：他動性について 第10回：構文の拡張 第11回：イメージスキーマ 第12回：イメージスキーマと構文 第13回：メタファー 第14回：メタファーと構文ネットワーク 第15回：まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習、課題解決学習、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 授業中に指示した参考文献をもとに予習に役立てください。授業では論文を精読し、問題点を見つけていきます。その問題点をどう改善すべきかを考えていき、論文執筆に向けて授業終了後まとめてもらいます。 |
| 免許・資格 | 中・高専修免許(英語) |
| 免許・資格の科目区分 | 英語の教科に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1023 | 科目名 | 言語学特講Ⅶ（英語学） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D7-6070 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | グローバル言語としての英語に関する基本的文献を精読する。一応 David Crystal, English as a Global Languageを読む予定であるが、受講者と相談の上決めたい。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | global languageとなった英語が抱える様々な問題を扱った文献を精読する事によって、言語の問題に反映された現代の世界が直面する様々な課題を読み解く。 |
| 到達目標 | 英語による文献を読む事で原書購読力を充実させるとともに、global化した英語が直面する諸課題についての洞察力・分析力を身につける。 |
| 評価方法 | 出欠席、参加状況、受講態度、レポートなどを総合的に評価する。 |
| 備考 | 報告、レポートにたいするフィードバックは、基本講義時間内に行う。 質問などもうけつける。 |
| テキスト・教材・経費等 | 担当者から適宜プリントを配布する。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <p>毎回手渡したプリントやテキストの関連箇所を精読していく。</p> <p>第1回：今日の英語(1)第2言語としての英語 第2回：今日の英語(2)外国語としての英語 第3回：今日の英語(3)それぞれによる影響 第4回：Grammar (1)話し言葉と書き言葉の文法 第5回：Grammar (2)文法知識と文法についての知識 第6回：Vocabulary (1)語彙にカウントすべき英語とは 第7回：Vocabulary (2)語彙のタイプ 第8回：Pronunciation (1)音における文節 第9回：Pronunciation (2)Received Pronunciation 第10回：Spelling (1)スペリングの規則 第11回：Spelling (2)不規則性の原因 第12回：英語の用法について 第13回：英語のVariety (1)方言とアクセント 第14回：英語のVariety (2)話し言葉と書き言葉 第15回：英語のVariety (3)集団の特性 定期試験</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 言語の問題を通して、現代社会を読み解いていく目を養って頂きたい。 事前準備に要する時間は、最低60時間。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1024 | 科目名 | 欧米文学特講 I (近代イギリス文学) | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D7-6090 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | イギリス世紀末の言語芸術を研究します。イギリスの世紀末の言語芸術である詩、散文、演劇、音楽等の作品を研究対象として、時代的、思想的、文化的視点から、体系的な理解を深めるために、ヨーロッパ文化との相対的な影響関係にも考慮し、世紀末文化を多面的に考察し、イギリス世紀末文学の概観を把握します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 関連するディプロマポリシーは次のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | イギリス世紀末の言語芸術について、背景的理解と基本的な知識を習得すると共に、当時の文学の概観を把握することが目標です。又、当然のことながら、英語の正確な読書力を高めます。 |
| 評価方法 | 授業の参加状況、レポート(60パーセント)と試験(40パーセント)など総合的に判断して評価します。 |
| 備考 | 授業の進行にあわせて、自分の考えをまとめて資料を作っておくなどの準備学習が必要となります。毎回の授業毎に、授業内容をノートにまとめる復習も重要です。詳細は各授業毎に担当者が指示します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 追って指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 1: イントロダクション 2: マックス・ノルドー研究 Fin de Siecle 3: マックス・ノルドー研究 Nordau 4: マックス・ノルドー研究 Hungarian 5: マックス・ノルドー研究 Neue Freie Presse 6: オスカー・ワイルド研究 Two Levels 7: オスカー・ワイルド研究 Iatlians 8: オスカー・ワイルド研究 Criticism 9: オスカー・ワイルド研究 Oxford 10: オスカー・ワイルド研究 London 11: オスカー・ワイルド研究 America 12: オスカー・ワイルド研究 Paris 13: オスカー・ワイルド研究 Reading 14: オスカー・ワイルド研究 Bernaval 15: まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 授業の進行にあわせて、事前に課題作品を読んでおく、自分の考えをまとめて資料を作っておくなどの準備学習が必要です。また、毎回の授業毎に、授業内容をノートにまとめる復習も求められます。詳細は各授業毎に担当者が指示します。計60時間以上。 |
| 免許・資格 | 英中・高専免(国語)、英語 |
| 免許・資格の科目区分 | 教職に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1025 | 科目名 | 欧米文学特講Ⅲ（現代アメリカ文学） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D7-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | William Faulknerの短編小説「That Evening Sun」を取り上げます。毎回担当を決め、作品を一字一句丹念に読み、解釈上の問題点などを討論していきます。先行研究を批評し、自分の解釈を究めていきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | この科目は現代文化専攻国際言語文化研究科の研究領域「英米文化・文学」に関して、現代文化研究科の次のディプロマポリシーに関連しています。 1 高度な専門知識・技能を身に付けている。 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果をあげている。 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力を身に付けている。 |
| 到達目標 | Faulkner作品を読み得る英語力を付け、さらに作品について語る批評の力、異なる意見に対する批判力、論理的に語る討論の力も付けることを目指します。 |
| 評価方法 | 期末レポート(30%) 担当箇所のコメント(30%) ディスカッションでのコメント(30%) 授業参加状況(10%) |
| 備考 | 課題等のフィードバックは授業内に行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「That Evening Sun」 William Faulkner プリント配布 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 インTRODクシヨン(作品成立の背景) 第2回 「That Evening Sun」精読1 作品設定を中心に 第3回 「That Evening Sun」精読2 情景描写の特徴を中心に 第4回 「That Evening Sun」精読3 会話文の特徴を中心に 第5回 「That Evening Sun」精読4 語り手を中心に 第6回 「That Evening Sun」精読5 登場人物を中心に 第7回 「That Evening Sun」精読6 作品のテーマを中心に 第8回 「That Evening Sun」精読7 家族関係を中心に 第9回 「That Evening Sun」精読8 人種問題を中心に 第10回 「That Evening Sun」精読9 ジェンダー問題を中心に 第11回 「That Evening Sun」精読10 表現と内容の関係をを中心に 第12回 批評研究 1 批評史について 第13回 批評研究 2 テーマ論／文体論について 第14回 批評研究 3 物語論について 第15回 批評と解釈 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 小説精読は毎回4ページくらい進みます。 批評研究は毎回20ページくらい進みます。しっかり予習してください。 批評研究はレジュメを準備する必要があります。 準備学習計60時間以上。 |
| 免許・資格 | 中・高専修免 |
| 免許・資格の科目区分 | 英語の教科に関する科目 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------|------|----|
| 時間割番号 | 7A1026 | 科目名 | 英語教育学特講 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D1-6080 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 発音・語彙・文法・談話など英語の諸側面の理解を深め、「何を」教えるのかという教材のあり方を議論します。コーパス言語学、意味論、語用論、第二言語習得理論、英語教育史などを含む文献講読によって基礎理論を学ぶとともに、実践的な英語学習法に関する各自のプレゼンテーションをもとにディスカッションを重ねます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | この科目は現代文化専攻・国際言語文化の「高度な言語コミュニケーション技術の修得」や「英語教員や日本語教員をめざした高度な専門的知識・技術の養成」という教育目標に関連しています。 |
| 到達目標 | ・英語教材の背景にある言語理論や学習理論を理解できる。 ・具体的な英語学習法を理論に基づいて分析し、記述できる。 |
| 評価方法 | 授業中のプレゼンテーションを含む課題達成度(50%)および期末レポート(50%)により総合的に評価します。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | 馬本 勉(編著)(2014)『外国語活動から始まる英語教育—ことばへの気づきを中心として—』あいに出版. 2,700円 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回: 英語教授法の歴史 第2回: 学習指導要領における目的論 第3回: 音声・文字とメディア 第4回: 語彙と辞書 第5回: 文法とテキスト 第6回: 創造的英語表現 第7回: 発問とコミュニケーション 第8回: 練習活動とタスク 第9回: 例文選定とコーパス 第10回: 教科書の分析 第11回: 独習書の分析 第12回: 英和辞典・和英辞典の分析 第13回: 英英辞典の分析 第14回: コロケーション辞典の分析 第15回: 基本語選定とシラバスデザイン |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 学習素材やツールとして、ネット上のコーパスやウェブサイトを活用します。 { http://tom.edisc.jp/hijiyama2016/ } |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1027 | 科目名 | 英語教育学特講Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D1-6090 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 英語教育学において必要とされる、理論に裏付けられた指導法を深めるために、理論と洞察を深める。そのため、英語教育学における主要なテーマについて、知識を確認し、議論する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | この科目は現代文化専攻・国際言語文化の「高度な言語コミュニケーション技術の修得」や「英語教員や日本語教員をめざした高度な専門的知識・技術の養成」という教育目標に関連しています。 |
| 到達目標 | 【知識・理解】英語教育学に関する基礎知識を持つことができる。 【技能・表現】適切な指導法を考慮し、発展させることができる。 【思考・判断】英語教育学の課題を分析することができる。 【関心・意欲・態度】自ら課題を探し、それに対して取り組むことができる。 |
| 評価方法 | 授業参加状況(30%)、レポート(50%)、プレゼンテーション(20%)などにより総合的に評価する。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | テキストは特に指定しない。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 英語教育学の研究 3. 英語教育の目的 4. 英語について 5. 学習者要因 6. 第二言語習得 7. 四技能(1) 8. 四技能(2) 9. 文法指導 10. 英語教授法 11. エラーニング・CALL 12. シラバス・教材 13. テスト・評価 14. プレゼンテーション 15. まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 各回、自分なりの課題を持ち、その課題を解決しようと取り組んでください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1028 | 科目名 | 日本語教育学特講 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D9-6010 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 受講生の関心ある日本語教育学のテーマに基づき、『講座・日本語教育学』から論文を選び、精読します。学期末には小論文を提出してもらいます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 日本語教育の意義を理解し、日本語教員として自立できる力を養うことにつなげる。 |
| 到達目標 | 日本語教育学の幅広い分野に関する知識を増やすこと。 |
| 評価方法 | 課題【60%】、参加状況(20%)、プレゼン((20%) |
| 備考 | 提出された課題は、次の授業で解説・返却します。疑問に思うところがあれば、質問してください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 『講座・日本語教育学』 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 1 :オリエンテーション 2~14: 講義・ディスカッション 15 :小論文発表 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 日本語教育に対する幅広い知識の獲得を目指しましょう |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1029 | 科目名 | 国際言語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | The aim of this seminar is to do basic research that will assist you in establishing your master's thesis topic. The instructor will respect students' research interests, but will be best able to assist students with research in spoken and written discourse or selected topics in culture and intercultural communication. |
| ディプロマポリシーとの関連 | Educational goals are to help nurture the ability to discern and understand the language and culture of English, including the ability to see how culture influences communication patterns and styles, and to apply this knowledge for the betterment of society and the self. |
| 到達目標 | To obtain the ability to narrow and research your topic. To develop the English reading, oral and written expression skills necessary to communicate your findings. |
| 評価方法 | Final report, presentations and overall effort. |
| 備考 | This course will be conducted in English. |
| テキスト・教材・経費等 | To be determined in class. |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1: Consider appropriate research topics. 2: Choose appropriate books and research materials. 3: Reading, note taking, progress presentations. 4: Summarize the results in a final term report. |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | Brainstorm and narrow your topic early so that you can manage your time effectively. Take good reading notes so that you will not have trouble summarizing the results at the end of the term. |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1030 | 科目名 | 国際言語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | アメリカの言語芸術の基礎的研究をします。特に、20世紀の小説、映画、音楽などの作品を扱います。受講生の興味関心にあわせた作品を取り上げる予定です。作品を鑑賞し、批評する技能を磨き、さらに自分の解釈を論理的に構成されたレポートにまとめ上げる技能を身につけます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | この科目は現代文化専攻国際言語文化研究科の研究領域「英米文化・文学」に関して、現代文化研究科の次のディプロマポリシーに関連しています。 1 高度な専門知識・技能を身に付けている。 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果をあげている。 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力を身に付けている。 |
| 到達目標 | 修士論文の書き方を理解する。 修士論文全体の構想を作り、章立てをし、序論を書く。 積極的に授業で発言することができ、他者と協力してディスカッションができる。 |
| 評価方法 | 課題レポート(30%) 担当箇所のコメント(30%) ディスカッションでのコメント(30%) 授業参加状況(10%) |
| 備考 | 課題等のフィードバックは授業内に行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | プリントを使用します |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 インTRODクシヨン 修士論文とは 第2回 修士論文のテーマ 第3回 修士論文の構成 第4回 修士論文における分析 第5回 修士論文と先行研究 第6回 修士論文の批評 第7回 修士論文の体裁 第8回 修士論文 構想発表会 論文のテーマと構成 第9回 研究作品の解説 第10回 研究作品の分析 第11回 研究作品における先行研究 第12回 研究作品の批評 第13回 研究作品間の関連 第14回 修士論文 構想発表会 先行研究と作品分析・解釈 第15回 修士論文の結論の妥当性 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | この時期は資料収集が一番大事です。前半までに必要な資料を集めておきましょう。構想発表会では、担当者はレジюмеを準備しておく必要があります。準備学習計90時間以上。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1031 | 科目名 | 国際言語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 論文の書き方、論文の批判的な読み方を身につけます。学期末に小論文を発表してもらいます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 日本語教育の意義を理解し、日本語教員として自立できる力を養うことに関連している |
| 到達目標 | 批判的な読み方&クリティカル・シンキングを身につけること |
| 評価方法 | 課題【60%】、参加状況(20%)、プレゼン((20%) |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | 特になし |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1 : オリエンテーション 2~14: 通常授業 15 : 小論文発表 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 日々の努力の積み重ね |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1032 | 科目名 | 国際言語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | イギリスの言語芸術の基礎的研究をします。特に、イギリスの世紀末の言語芸術である詩、散文、演劇、音楽等の作品を研究対象として、時代的、思想的、文化的視点から、体系的な理解を深めるために、ヨーロッパ文化との相対的な影響関係にも考慮し、世紀末文化を考察し、論文を書くに至る過程も丹念に指導します。受講生の研究対象にあわせて、柔軟に対応する場合があります。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 関連するディプロマポリシーは次のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | イギリスの言語芸術について、概念的な理解と基本的な知識を習得すると共に、その醍醐味を鑑賞できるようにすることが目的です。又、当然のことながら、英語の正確な読書力を高めます。 |
| 評価方法 | 授業の参加状況、レポート(60パーセント)と試験(40パーセント)など総合的に判断して評価します。 |
| 備考 | 受け身ではない積極的な受講を希望します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 追って指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 イントロダクション 国際言語文化特別演とは 第2回 文学の始まり 第3回 原書講読1 イギリス世紀末文学 第4回 原書講読2 Tales from Shakespeare 第5回 原書講読3 Tales from Shakespeare 第6回 原書講読4 Tales from Shakespeare 第9回 原書講読5 Tales from Wilde 第10回 原書講読6 Tales from Wilde 第12回 原書講読7 Tales from Wilde 第13回 原書講読8 Tales from Wilde 第14回 省察 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 発見学習、問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート学生の能動的な学習活動 |
| 準備学習(予習・復習) | 主体的に学んでいただきたいが、演習科目であるので、課題の予習に特に力を入れていただきたい。特に毎回、次回の予習範囲を具体的に示すので、予習しておくこと。更に、疑問点を整理し、授業時に確認すること。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1033 | 科目名 | 国際言語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | QuirkやCrystalなど英語学者の著作をすこしずつ読み進む予定にしている。 それによって、英語の構造や用法にどのような問題が存在しているか言語学的認識を深めるとともに、あわせてそれに付随して言語文化的認識も深める。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 英語学者の著作を読みながら、英語の抱える問題を認識し、さらには現代英語文化圏の直面する諸課題を捉えていく。 |
| 到達目標 | 英語に関して書かれた文献を精読する事を通して原書購読力の充実をめざすとともに、現代英語ならびに英語文化の抱える諸課題に対する認識をもつ。 |
| 評価方法 | 演習での発表内容、受講態度、レポートなどを総合的に評価する。 |
| 備考 | レポートなどに対するフィードバックは、極力ゼミの時間内に行いたい。 |
| テキスト・教材・経費等 | 受講者と相談の上テキストを選ぶ。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 毎回担当を決めて、各自のテーマに沿った資料あるいは材料を集めた上で、レジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらう。 発表内容に対して、活発に議論をかわし、論文の完成に資する。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | じっくりと英語の文献を読み、そこからどのような言語的、あるいは言語文化的情報を読み解くか、その目を養っていく。 ゼミ時間外での準備学習には、最低60時間必要。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1034 | 科目名 | 国際言語文化特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文作成に向けて、機能的統語論の点から日本語と英語の構文分析を行っていく。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 欧米言語文化研究の目標である『高度な言語コミュニケーション技術の修得』に関連しています。 |
| 到達目標 | この授業では、日本語と英語のさまざまな構文を観察していき、機能的・意味的な側面から分析を行う力を養っていく。 |
| 評価方法 | 平常点、レポートで評価します。 |
| 備考 | 毎回ハンドアウトを作成し、発表してもらいます。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「日英語の機能的構文分析」高見 健一 鳳書房 4800円 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 形式的統語論と機能的統語論 第2回 機能的統語論のデータ 第3回 受身文とコントロール構文 第4回 英語の数量詞遊離 第5回 英語の後置文 第6回 日本語の後置文 第7回 日本語の数量詞遊離① 第8回 日本語の数量詞遊離② 第9回 日本語の数量詞遊離③ 第10回 tough構文① 第11回 tough構文② 第12回 tough構文③ 第13回 特徴づけについて 第14回 「象は鼻が長い」構文① 第15回 「象は鼻が長い」構文② |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | プレゼンテーション、事項省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 修士論文作成を意識して、毎回の発表テーマについての事前にハンドアウトを作成していきます。発表後は各テーマについてディスカッションしていきます。ディスカッションで出た問題点をまとめて、修士論文執筆に向け降りかえっていきましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1035 | 科目名 | マスメディア特講 I (情報社会) | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6010 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 21世紀に入り、パソコンや携帯電話の普及によって、情報の形が大きく変わってきている。情報社会に関する図書を選んで、メディアについての知識を身につける手助けをしたい。研究生生活の入り口にあつて、情報社会を生きるこの意味をより深く理解する必要がある。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「メディア」を主要テーマにした専門書を読み込み、情報社会の意味を理解する。 |
| 到達目標 | 情報社会の現在がどういふ状況にあるかを知る。 |
| 評価方法 | 専門書を読みこなし、これからの問題について考察する力を評価する。 |
| 備考 | 大学において「情報」「メディア」を学んだことを前提に授業をすすめる。情報メディアに関する研究を志す人にはぜひ履修してほしい。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて専門書を提示する。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | ①～⑤ 『キングの時代』(佐藤卓己著)と現代を比較して考察する。 ⑥～⑩ 『テレビ的教養——億総白痴化への系譜』(佐藤卓己著)の現代的意義。 ⑪～⑮ 『現代社会とメディア』(NHK放送文化研究所編)と日本人の性向。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | マスメディアの中で最も古い新聞を理解し、知ることが原点になる。意識的に新聞を読んでほしい。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1036 | 科目名 | マスメディア特講Ⅲ（マスコミ） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6030 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 学生の問題意識を基本に据え、そのテーマにそって内容を組み立てる。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | ディプロマ・ポリシー1, 2にかかわっています。 1 講義・ゼミナール, さらにはフィールドワークなどの実践的な活動を通じて、「話す・聴く・読む・書く」こと, そして、「チームで取り組む」ことをくり返しトレーニングし, 社会人にふさわしいコミュニケーション能力を身に付けている。 2 テレビ・新聞などの在来メディアとインターネットなどの新しいメディアの双方に関する基礎知識を持ち, ビジネスの現場や地域社会において, 基本的な対応ができる「取材・調査・企画・制作・情報発信」などのスキルを身に付けている。 |
| 到達目標 | 学生が抱いた問題意識に基づいて, 調査や取材をし, 達成感が得られる。 |
| 評価方法 | 直近の情報収集力や, レポートの内容, 意欲によって評価する。マスコミの他科目と同様に, 4回欠席で不可, 遅刻2回で1回欠席に扱いにします。 |
| 備考 | 大学で「情報」「メディア」を学んだことを前提に授業をすすめる。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて指示する。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 最初は, 学生の示した問題意識について, なぜ関心を持ったか, その核心は何かを探っていく。核心がつかめ, 探るべき点が明らかになったら, そのために必要なことを考える。 設定したテーマに基づく資料収集, ネットによる調査, 取材などによって, 疑問を解いていく。 * 一方的な講義ではなく, 共同作業となる。受身では何も進まないことを理解しておいてください。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | ペア・ワーク, グループ学習, 調査・実習, 課題発見学習, プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 半期を見渡して, 今の時期になすべきことは何かを常に意識しながら, 自分のペースで作業を進めることができるような環境を整える。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1037 | 科目名 | 情報管理特講 I (情報管理) | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 本特講は「インターネットの情報管理」が主たるテーマですが、今年度は「オープンデータの活用可能性」を具体的なテーマとします。 オープンデータは政府・地方自治体・公的機関による情報公開の一環として注目を集めています。これらの機関からインターネットを通して広く公開される情報について、現状調査しその利活用を究明します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 情報社会におけるオープンデータについて認識を深めます。 |
| 到達目標 | オープンデータについて見識を深め、日本の現状を知ることができる。 |
| 評価方法 | 課題に対するレポート・発表・議論をとおして評価します。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | 授業中に指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション、なぜ「オープンデータ」をテーマとするか。 第2回 オープンデータの概要把握(日経新聞の記事から) 第3回 オープンデータの概要把握(経済雑誌「エコノミスト」から) 第4回 オープンデータの概要把握(学術雑誌「情報処理」から) 第5回 オープンデータの概要について意見交換とレポート作成 第6回 オープンデータの概要についてレポート完成 第7回 日本のオープンデータの取り組みについて: 解説 第8回 総務省の取り組み 第9回 福井県鯖江市の取り組み 第10回 横浜市の取り組み 第11回 その他の都市の取り組み 第12回 広島県内の取り組みについて: 調査方法の確立 第13回 広島県内の取り組みについて: 調査(Webページ) 第14回 広島県内の取り組みについて: 調査(Webページ) 第15回 広島県内の取り組みについて意見交換とレポート作成 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 意見交換やレポート作成ができるように、情報収集を怠らないでください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1038 | 科目名 | 情報管理特講Ⅲ（情報分析） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6090 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | ビット(情報)の概念とその意味について、ニコラス・ネグロポンテ著『ビーイング・デジタル ビットの時代』の精読を通じて分析論的に考察します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ①文献を読んで自分の言葉で説明できること。 ②情報の本質が理解できること。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み状況とレポートにより、総合的に評価します。 |
| 備考 | 自然科学の知識があると、理解が深まります。 課題やレポートを実施した際にはその都度、解答と解説を行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | ニコラス・ネグロポンテ著『ビーイング・デジタル ビットの時代』(アスキー) |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 受講生が主体となって文献を読み進めていきます。単に読み進めるだけでなく、途中で議論を加えることで理解を深めるようにします。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 受講生がプレゼンテーションを行う形式です。従って、プレゼンテーション内容について周知な準備を行ってください。 自学自習総時間:60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1039 | 科目名 | 情報管理特講Ⅴ（マーケティング） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7F2-6110 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | マーケティングの体系化をおこなったコトラーの文献を輪読します。マーケティングは顧客を絞り込み、その少数の顧客の満足を引き出すための技術と知識です。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「広告・マーケティング」分野における基礎となるマーケティングの初歩について学びます。マーケティングは精緻な分析と行動計画に基づく科学的な活動です。この活動の基盤となる知識の習得をおこないます。 |
| 到達目標 | マーケティングは製品企画、価格決定、広告戦略、流通システムの構築など、検討すべき課題が多岐にわたります。どれか一つを変化させれば、必然的に他の要素への影響が出てきます。本講義ではこれらの要素を体系的に網羅したコトラーの『マーケティング・マネジメント(基本編)』を読むことで、マーケティングの基礎知識の獲得を目指します。 |
| 評価方法 | 輪読の担当(30%) 議論への貢献(30%) 文献の理解度(40%) |
| 備考 | ・課題やレポートを実施した際にはその都度、返却し解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編(第3版)』ピアソン・エデュケーション、2008年 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | コトラー『マーケティング・マネジメント基本編(第4版)』を精読します。 (1) ガイダンス (2) 「21世紀のマーケティングの定義」 (3) 「マーケティング戦略とマーケティング計画の立案と実行」 (4) 「市場、市場需要、マーケティング環境の理解」 (5) 「顧客価値、顧客満足、顧客ロイヤルティの創造」 (6) 「消費者市場の分析」 (7) 「市場セグメントとターゲットの明確化」 (8) 「ブランド・エクイティの創造」 (9) 「ポジショニングの設定と競争への対処」 (10) 「製品戦略の立案とライフサイクルを通じてのマーケティング」 (11) 「サービスの設計とマネジメント」 (12) 「価格設定戦略と価格プログラムの策定」 (13) 「バリュー・ネットワークおよびチャネルの設計と管理」 (14) 「統合型マーケティング・コミュニケーションの設計とマネジメント」 (15) 「グローバル経済におけるマーケティングの管理」 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習 |
| 準備学習(予習・復習) | ・テキストが難しいと感じる場合には、下記文献を読んで予習をしてください。 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣アルマ、2000年 ・自学自習総時間 60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1040 | 科目名 | 情報メディア特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7F1-6010 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文を執筆するために必要な知識・情報の獲得するとともに、修士論文の着想をえる。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | マーケティングの学問的な知識をもとに、実際の企業やそれを取り巻く経済環境などを分析する力を養います。 |
| 到達目標 | 修士論文着想を得ること、およびマーケティングの知識の獲得をめざします。 |
| 評価方法 | 研究報告と質疑応答(50%) マーケティングへの理解度(50%) |
| 備考 | ・課題やレポートを実施した際にはその都度、返却し解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 研究テーマの発表 第2回 研究計画の作り方 第3回～第14回 進捗状況のプレゼンテーション 第15回 夏期休暇中の調査計画の報告 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | ・修士論文の研究計画に基づいて、毎週、研究成果の報告を求めます。また指摘した箇所の改善も報告してもらいますので、その準備をしてください。 ・自学自習総時間 60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|----|
| 時間割番号 | 7A1041 | 科目名 | 情報メディア特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7F1-6010 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 価値観の多様化と情報技術の発展が絡み合って進行しているかのように見える今日の情報社会では、その技術的基盤としての情報システムと情報管理の重要性には顕著なものがあります。本演習では、IとIIに渡って、このような認識のもとに、情報に関連する課題を受講生とともに考察します。特に、Iでは、情報システムや情報管理に関する基礎的理解を深めます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 高度情報化社会の課題に対する認識を深めます。 |
| 到達目標 | 情報システムや情報管理に関する基礎的理解が得られること。 |
| 評価方法 | 旺盛な研究心とそれによる成果物で評価します。 |
| 備考 | この演習をとおしてレポートの作成と発表を繰り返します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 受講生と相談の上、決定します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 この授業のオリエンテーション 第2回 情報システムの基礎—講義 第3回 情報システムの基礎—討論 第4回 情報システムの基礎—発表 第5回 情報システムの基礎—レポート作成 第6回 情報管理の基礎—講義 第7回 情報管理の基礎—討論 第8回 情報管理の基礎—発表 第9回 情報管理の基礎—レポート作成 第10回 ケーススタディー—講義 第11回 ケーススタディー—討論 第12回 ケーススタディー—発表 第13回 ケーススタディー—レポート作成 第14回 研究テーマについての検討 第15回 研究テーマの確定 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 授業中に指示します。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|----|
| 時間割番号 | 7A1042 | 科目名 | 情報メディア特別演習 I | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7F1-6010 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 情報教育についての論文、特にプログラミング教育関係の論文を読み、プログラミング的思考や論理的思考育成の観点から情報教育の現状を理解します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 論文を読んで、自分の言葉で解説できること。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み状況とレポートにより、総合的に評価します。 |
| 備考 | キーワードは「プログラミング的思考」「論理的思考」「アルゴリズム」です。 |
| テキスト・教材・経費等 | 情報処理学会・教育システム情報学会などの論文や研究報告 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 情報教育についての論文を読み、解説をしてもらいます。論文以外にもできるだけ多くの文献を読んで、日頃から知識を増やしておくことが必要です。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 受講生がプレゼンテーションを行う形式です。プレゼンテーション内容や方法について周知な準備を行なって臨んでください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A1043 | 科目名 | 情報メディア特別演習 I | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7F1-6010 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 自分が会いたいと思う人を選び、アポを取り、インタビューをして、文章を組み立てる。これまでにやってきたスキルの上に、さらにレベルの高いものに取り組む。とりわけ、文章については、人の目に触れても耐えられるだけの内容を目指す。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | ディプロマ・ポリシー1, 2にかかわっています。 1 講義・ゼミナール、さらにはフィールドワークなどの実践的な活動を通じて、「話す・聴く・読む・書く」こと、そして、「チームで取り組む」ことをくり返してトレーニングし、社会人にふさわしいコミュニケーション能力を身に付けている。 2 テレビ・新聞などの在来メディアとインターネットなどの新しいメディアの双方に関する基礎知識を持ち、ビジネスの現場や地域社会において、基本的な対応ができる「取材・調査・企画・制作・情報発信」などのスキルを身に付けている。 |
| 到達目標 | きちんとしたインタビューができ、一定レベルの文章が書ける。 |
| 評価方法 | 何かを調べようとする意欲、目的を達成する過程での粘り強さ、できたレポートによって評価する。マスコミの他科目と同様に、4回欠席で不可、遅刻2回で1回欠席に扱いにします。 |
| 備考 | 大学で「情報」「メディア」を学んだことを前提に授業をすすめる。 |
| テキスト・教材・経費等 | 基本的には不要。必要に応じて指示する。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1-3回 学生の関心ある領域で、インタビューしたい人を選ぶ。その人に話が聞けるかどうか状況を調べ、判断する 第4-6回 対象が定まったら、何を聞くのかポイントを整理する。アポを取り、実際にインタビューをし、第一稿を完成させる 第7-8回 推敲と補足取材をする 第9-12回 推敲を重ね、第2、第3稿を完成させる 第13回 最終チェック 第14回 相手にお礼状とともに発送 第15回 振り返り |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、ペア・ワーク、グループ学習、調査・実習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 半期を見渡して、今の時期になすべきことは何かを常に意識しながら、自分のペースで作業を進めることができるような環境を整える |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|----------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A2001 | 科目名 | 日本語特講Ⅱ（現代日本語論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D2-6020 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 日本語特講Ⅰ（現代日本語論）に引き続き、「気」の慣用表現を対象とし、類義表現間の相違点を考察し、外国語での類似の表現及びその心理との比較対象を行い、発表・討議する。研究の成果を、「気」の慣用表現の意味用法の説明と典型用例からなる用法辞典としてまとめていく。あわせて、慣用表現及び「気」の文化に関する文献を講読し、日本語における「気」の表現の体系と特徴について考察する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 「気」の表現の考察を出発点に、表現の背後にある日本文化の本質としての「気」の文化を理解し、生きた学問としてそれを実生活で応用できるようになることを目標とします。 |
| 評価方法 | 発表・質疑応答(20%)・レポートの内容(60%)／その他、参加状況、研究意欲等(20%) |
| 備考 | 少し高度な語学力が必要。その「気」になってやる「気」を出せば、「気」の世界がさり「気」なく見えてくる。課題に対するフィードバックは、授業や面談を通して行う。 |
| テキスト・教材・経費等 | オリジナルプリント資料 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回：オリエンテーション※授業は、資料紹介・発表及び質疑応答を中心に進めていきます。 第2回：日本語の慣用表現 第3回：慣用表現の定義と分類 第4回：「気」の慣用表現の翻訳 第5回：身体語彙の慣用表現①総論 第6回：身体語彙の慣用表現②体編 第7回：身体語彙の慣用表現③心編 第8回：体の部位を要素とする慣用表現の意味用法 第9回：精神に関する語を要素とする慣用表現の意味用法 第10回：「心」を要素とする慣用表現の意味用法 第11回：「気」の文化論①宮都変遷の観点を中心に 第12回：「気」の文化論②密教・修験道の観点を中心に 第13回：「気」の文化論③禅宗・朱子学の観点を中心に 第14回：「気」の表現と文化 第15回：まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | まずは、自分で生きた言語資料を収集することからはじめましょう。その後に、慣用表現を中心に日本語の表現の分析方法について学んでください。分析の結果から、日本語の表現に見られる日本文化の特質について考察してみてください。予習・復習は事前配付の講読資料でしっかりとやりましょう。予習として資料の用意・内容把握に2時間、復習として資料の精査を2時間、計60時間以上行ってください。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2002 | 科目名 | 日本語特講Ⅳ（日本語史論） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D2-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 日本語特講Ⅲに引き続き、『竹柏園本平家物語』影印の翻刻を通して、日本語学研究に必要とされる基礎的な力を養う。また、後半は翻刻する中で見つけた日本語史上の課題を各自が設定し、その課題を解決するための方法を考え、発表・討議を行う。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマポリシーである「現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」に関連する科目です。 |
| 到達目標 | (1) 古典語文献の特性を理解し、日本語研究の史料として丁寧に読み扱うことができる (2) 日本語史分野の研究方法を使って史料を精読できる (3) 対象史料特有の言語事象を見つけ、日本語史の中に位置づけることができる |
| 評価方法 | 授業の参加状況・課題への取り組み方(20%)、発表内容(50%)、期末レポート(30%)によって総合的に判断する。 |
| 備考 | 授業の開始時に輪読範囲の作業状況を確認し、授業内でフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 【テキスト】「天理図書館善本叢書45・46 平家物語 竹柏園本 上下」天理図書館善本叢書之部編集委員会編(天理大学出版部) 【参考書・参考資料等】「屋代本平家物語」春田 宣(角川書店)、「平家物語 屋代本高野本対照」麻原美子他(新典社)、「平家物語 覚一本 全」大津 雄一・平藤 幸(武蔵野書院)、「平家物語総索引」金田一 春彦・清水 功・近藤 政美(学習研究社) |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回: ガイダンス: 対象とする文献について・発表方法の説明 第2回: 受講生による翻刻(二十七裏から二十九表)・片仮名・平仮名の成立と展開 第3回: 受講生による翻刻(二十九裏から三十一表)・文体差と表記形態 第4回: 受講生による翻刻(三十一裏から三十三表)・日本語の母音の変遷 第5回: 受講生による翻刻(三十三裏から三十五表)・日本語の子音の変遷 第6回: 受講生による翻刻(三十五裏から三十七表)・音便の発生と展開 第7回: 受講生による翻刻(三十七裏から三十九表)・漢字音の変遷と表記 第8回: 受講生による翻刻(三十九裏から四十一表)・係助詞の変遷 第9回: 受講生による翻刻(四十一裏から四十三表)・格助詞の変遷 第10回: 受講生による研究発表1: 仮名字母のヴァリエーション 第11回: 受講生による研究発表2: 係助詞「コソ」の係り結び例、非係り結び例 第12回: 受講生による研究発表3: 助動詞「被」を表す「衣」 第13回: 受講生による研究発表4: 再読文字「未」の非再読例 第14回: 受講生による研究発表5: 右傍に付された濁る音を表す符号 第15回: まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 【予習】毎回の授業で本文の範囲を指定します。その範囲を翻刻するとともに、辞書を使って、テキストについて調査を行いましょう。 【復習】授業内で指摘された点について振り返り、翻刻の修正を行ってください。また、翻刻の範囲から研究テーマを設定し、研究発表の資料作りに生かしましょう。 予習・復習をあわせて、合計60時間以上の準備時間をかけてください。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2003 | 科目名 | 日本文学特講Ⅱ（古代文学論） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D3-6020 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「日本文学特講Ⅰ(古代文学論)」に続く形で、『古今集注』の読解を通じて、古典文学の解釈のために必要な基礎力の育成を目指します。顕昭著の勅撰集注釈書である『古今集注』には、『古今和歌集』注釈の始発となる藤原教長注と、それを乗り越える形での顕昭注が付されています。実証的な顕昭の注釈を読み解くことを通じて、古代文学の聖典たる『古今和歌集』がどのように享受されたかについて考察します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1)『古今和歌集』収載歌および和歌史に関する知識を身に付けることができる 2)日本古典文学の研究に必要な基礎的読解力を身に付けることができる 3)日本古典文学の研究方法について理解を深めることができる |
| 評価方法 | 発表レポート(50%) 最終レポート(30%) 授業への参加状況(20%) |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜、プリントを配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 『古今集注』巻第一・四七番歌の読解・解説 第3回 『古今集注』巻第一・五〇番歌の読解・解説 第4回 『古今集注』巻第一・五一番歌の読解・解説 第5回 『古今集注』巻第一・五五番歌の読解・解説 第6回 『古今集注』巻第一・五八番歌の読解・解説(前半) 第7回 『古今集注』巻第一・六二番歌の読解・解説(後半) 第8回 『古今集注』巻第一・六三番歌の読解・解説 第9回 『古今集注』巻第一・六一番歌の読解・解説 第10回 『古今集注』巻第一・六八番歌の読解・解説 第11回 『古今集注』巻第二・六九番歌の読解・解説 第12回 『古今集注』巻第二・七二番歌の読解・解説 第13回 『古今集注』巻第二・七三番歌の読解・解説 第14回 『古今集注』巻第二・七五番歌の読解・解説 第15回 『古今集注』巻第二・八〇番歌の読解・解説 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 発表担当者は、オリエンテーションで示す発表の方法に基づいて、語釈・通釈など担当範囲の調べを事前に行ってください(予習)。また質疑の内容をふまえて、必要事項を確認し、資料の修正を行ってください(復習)。参加学生は、あらかじめ次回範囲を通読(予習)した上で、解釈上の疑問点などを発表担当者に質問してください。また授業でのやりとりをふまえて気付いたこと・考えたことを、ノートにまとめてください(復習)。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2004 | 科目名 | 日本文学特講Ⅳ（中世文学論） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D3-6040 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 「日本文学特講Ⅲ（中世文学論）」に続く形で、『袖中抄』の読解を通じて、古典文学の解釈のために必要な基礎力の育成を目指します。顕昭著の歌語注釈書である『袖中抄』には、『万葉集』以来の歌語、とりわけ和歌実作を行う上で必須の知識となる難義を含んだ語が取り上げられています。実証的な顕昭の注釈を読み解くことを通じて、中世の歌人たちの和歌に対する姿勢について考察します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 歌語および和歌史に関する知識を身に付けることができる 2) 日本古典文学の研究に必要な基礎的読解力を身に付けることができる 3) 日本古典文学の研究方法について理解を深めることができる |
| 評価方法 | 発表レポート(50%) 最終レポート(30%) 授業への参加状況(20%) |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜、プリントを配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 15「よしゑやし」 第3回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 16「はしきやし」 第4回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 17「ゑふのみなればなほやまず」 第5回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 18「えやはいぶきのさしもぐさ」 第6回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 19「はたすゝき」 第7回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 20「いそなつむめざし」 第8回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 21「まとりすむ」 第9回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 22「さではへしゝのゆめ」 第10回 『袖中抄』巻第二の読解・解説 23「白露のおけるめ」 第11回 『袖中抄』巻第三の読解・解説 24「まひなし」 第12回 『袖中抄』巻第三の読解・解説 25「ひじきもの」 第13回 『袖中抄』巻第三の読解・解説 26「はねず色」 第14回 『袖中抄』巻第三の読解・解説 27「わかせしがごとうるはしみせよ」 第15回 『袖中抄』巻第三の読解・解説 28「うけらが花」 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 発表担当者は、オリエンテーションで示す発表の方法に基づいて、語釈・通釈など担当範囲の調べを事前に行ってください(予習)。また質疑の内容をふまえて、必要事項を確認し、資料の修正を行ってください(復習)。参加学生は、あらかじめ次回範囲を通読(予習)した上で、解釈上の疑問点などを発表担当者に質問してください。また授業でのやりとりをふまえて気付いたこと・考えたことを、ノートにまとめてください(復習)。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2005 | 科目名 | 日本文学特講Ⅵ（近代文学論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D3-6060 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 近代文学研究の出発点となる本文テキストがいかんして成立しているのかについて考察し、作品の解釈にも関わっていく可能性について考察する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連しています。 1、現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2、自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3、知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 文学作品を自分で鑑賞・批評できる力。 文学的表現を味わうことができる力。 |
| 評価方法 | 演習発表(40%)、レポート(40%)、小レポート(20%) |
| 備考 | 課題やレポートを実施した際には、その都度返却し解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「直筆で読む「坊っちゃん」」(集英社新書ヴィジュアル版) |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <p>近現代文学についても、当然ながら本文についての手続きがなされているのであるが、活字になった本を手にする現代の読者には意識されにくいことである。この授業では直筆原稿を手軽に見ることができる夏目漱石の「坊っちゃん」を例に、近現代文学作品の本文がいかんして成立するのかについて考察する。また作品の解釈について影響するのかについて考える。受講者は担当箇所を決め、順番に発表してもらう。</p> <p>第1回：オリエンテーション・授業計画について 第2回：直筆原稿について① 第3回：直筆原稿について② 第4回：直筆原稿を読む① 第5回：直筆原稿を読む② 第6回：直筆原稿を読む③ 第7回：直筆原稿を読む④ 第8回：直筆原稿を読む⑤ 第9回：直筆原稿を読む⑥ 第10回：直筆原稿を読む⑦ 第11回：直筆原稿を読む⑧ 第12回：直筆原稿を読む⑨ 第13回：直筆原稿を読む⑩ 第14回：直筆原稿を読む⑪ 第15回：補足発表・まとめ</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 調査・実習 その他(グループ・ディスカッション デイバート) |
| 準備学習(予習・復習) | 授業で扱う対象の理解に必要な先行研究の調査等(2時間)、発表資料の準備(2時間)。 授業1回につき4時間×15回、合計60時間を目安とする。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2006 | 科目名 | 日本文学特講Ⅷ（現代文学論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D3-6080 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 日本文学特講Ⅷ（現代文学論）で取り上げた、13人の近・現代作家の作品読解を行います。問題の発見と、それに対するアプローチ方法を学ぶのがねらいです。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ○日本近代文学作品を読解することができる。 ○関連資料等の分析(適切な利用)ができる。 ○分析・考察結果を的確にまとめ、発表できる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(20%)、討議における質疑応答(20%)、レポート(60%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | レポート等の課題はHiwayで提出してもらいます。提出された課題の評価はHiway上で確認できます。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜プリントを配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回: ガイダンス 第2回: 谷崎潤一郎 第3回: 井伏鱒二 第4回: 川端康成 第5回: 太宰治 第6回: 三島由紀夫 第7回: 安部公房 第8回: 遠藤周作 第9回: 大江健三郎 第10回: 村上春樹 第11回: 村上龍 第12回: 山田詠美 第13回: よしもとばなな 第14回: 川上弘美 第15回: まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 授業外学習時間の目安 (予習120分)取り上げる作家の作品をすくなくとも1編以上読む。 (復習120分)図書館等を利用し、関連文献などにあたって理解を深める。 ※15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2007 | 科目名 | 日本文学特講Ⅹ（文学理論） | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D3-6100 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 日本文学特講Ⅹで学んだ文学理論を実践し、近現代の小説テキストを読解していきます。対象とするテキストに応じて適切な分析方法を選択できるような訓練します。同時に、明治から昭和までの幅広い短編小説を対象とすることで、文学史の専門的知識を獲得し、文学史的視点から小説を位置づける能力を身につけます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマ・ポリシーのうち、本授業で身につけることを目指す知識や能力は以下のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・対象とする小説テキストに応じて適切な分析方法を選択し、独自の解釈を展開することができる ・近現代の主要な小説を読み解く作業を通して、近現代文学史についての専門的識見を養い、文学史的視点から個々のテキストを位置づけることができる |
| 評価方法 | 期末レポート(60%)、授業内課題(20%)、授業参加の積極性(20%) |
| 備考 | 参考書・参考資料等 安藤宏・関口隆一・中村良衛・山根龍一・山本良『ちくま近代評論選』(筑摩書房、2017年10月) 【フィードバックの方法】 授業内課題については授業内で適宜フィードバックを行います。 期末レポートについては学期末までに個別にフィードバックを行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 石井和夫、小林修、田中実編『近代文学読本』(双文社出版、1985年3月) |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 樋口一葉「十三夜」①明治期の文語体小説について 第3回 樋口一葉「十三夜」②明治期の家と女性 第4回 樋口一葉「十三夜」③明治期の階級と社会 第5回 国木田独歩「春の鳥」①制度としての「私」 第6回 国木田独歩「春の鳥」②近代と精神病 第7回 志賀直哉「范の犯罪」①志賀直哉文学概説 第8回 志賀直哉「范の犯罪」②〈事実〉とは何か 第9回 芥川龍之介「藪の中」①テキストの多声性 第10回 芥川龍之介「藪の中」②〈語る行為〉の物語 第11回 横光利一「蠅」①三人称の語りと物語のパスpekティブ 第12回 横光利一「蠅」②〈内面〉の後景化 第13回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」①プロレタリア文学について 第14回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」②テキストの枠構造 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 【予習】扱う作品とテキストの該当部分を事前に読み、関連する資料を各自で調べてきてください。(120分程度) 【復習】授業で扱った作品が文学史の中でどのように位置づけられているか、図書館等で資料を調べてください。(120分程度) |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|---------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A2008 | 科目名 | 日本文化特講Ⅱ（文化史論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D4-6020 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 中世から近世初頭における中国文化・ヨーロッパ文化の伝来と受容について学びます。禅宗ならびにキリスト教が日本文化に及ぼした影響について考究します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1. 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門知識・技能 2. 自ら設定した研究課題に対する学位修士ふさわしい研究成果 3. 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 外来文化の影響のもとで形成された、日本文化の諸相を理解することを目指します。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況および意欲(20%)と、レポート(50%)ならびに発表(30%)により総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題やレポートを実施した際には、その都度返却し、解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜プリントを配付します。 |

| | |
|------|--|
| 授業計画 | 第1回 鎌倉文化① 第2回 鎌倉時代の仏教① 第3回 鎌倉時代の仏教② 第4回 北山文化 第5回 東山文化 第6回 禅と芸術 第7回 禅と生活文化① 第8回 禅と生活文化② 第9回 戦国武将と禅① 第10回 戦国武将と禅② 第11回 文化の地方普及と仏教の発展 第12回 キリスト教の伝来 第13回 バテレンの日本観 第14回 桃山文化 第15回 南蛮文化 |
|------|--|

| | |
|------------------|--|
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメントペーパー，課題発見学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 適宜事前に閲覧すべき専門書を提示しますので、日本文化の特質を考えてみましょう。わからないことは、積極的に質問しましょう。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2009 | 科目名 | 日本文化特講Ⅳ（文化論） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D4-6040 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 考古遺物の見方およびそれらを用いた過去の生活文化の復元方法について学びます。対象とする時期は旧石器時代から古代(奈良・平安時代)が中心で、一部中世も扱います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻の以下のディプロマ・ポリシーに関連します。 「現代文化専攻いずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」 「自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果」 「知識基盤社会の発展に貢献できる実践力」 |
| 到達目標 | 考古遺物の作られ方や見方、文章や図面の表現の方法について理解できるようになる。 考古資料から歴史を復元する方法を理解できるようになる。 |
| 評価方法 | 参加状況(10%)、レポート(50%)、課題発表(40%)により総合的に判断します。 |
| 備考 | 『図解技術の考古学』(潮見浩, 有斐閣)を基本文献とするので、本格的に勉強しようと思う人は購入することをお薦めします。 課題等のフィードバックは教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | とくに定めません。適宜資料を配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 第2回 金属器①—青銅器①— 第3回 金属器②—青銅器②— 第4回 金属器③—鉄器①— 第5回 金属器④—鉄器②— 第6回 金属器⑤—青銅・鉄以外の金属— 第7回 ガラス製品 第8回 製塩 第9回 木製品 第10回 編物・織物・漆 第11回 考古資料による年代決定 第12回 理化学的年代測定法①—年輪年代測定— 第13回 理化学的年代測定法②—放射性炭素年代測定— 第14回 理化学的年代測定法③—熱残留磁気年代測定— 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習 その他(ディベート) |
| 準備学習(予習・復習) | 予習として、シラバスを参照して、授業内容に関連する事柄についてあらかじめまとめておきましょう。また、復習として、授業で学んだ内容を図書館の書籍などで確認し、学びの定着を図ってください。1回の授業につき、毎回4時間以上の予習・復習を行ってください。図書館に所蔵されている考古学関連の図書を大いに活用しましょう。とくに写真が多数掲載されているものが便利です。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2010 | 科目名 | 国語科教育特講Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D1-6020 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「国語科教育特講Ⅰ」に続き、国語科の「読むこと」における「書くこと」について、応用的な知識を理解し、実践の力量を高めます。「読むこと」における「主体的・対話的で深い学び」「指導と評価の一体化」に関する内容を含みます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・「読むこと」における書く学習活動の目的、内容、方法、評価とその改善について理解することができる。 ・「読むこと」の実践における書く学習活動を分析し、指導の改善に生かすことができる。 |
| 評価方法 | 討議(20%)、授業参加状況(30%)、レポート(50%)によって評価します。 |
| 備考 | 提出された課題の解説と指導を、授業時に行います。その際に、復習(理解の確認など)とともに、必要に応じて発展的内容について学習します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業時に指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:オリエンテーション 「読むこと」における「書くこと」の要請、「主体的・対話的で深い学び」の検討 第2回:「読むこと」における「書くこと」の概観(1)理論面を中心に 第3回:「読むこと」における「書くこと」の概観(2)実践面を中心に 第4回:「書くこと」から見る「読むこと」の授業づくり(1)説明的文章教材の分析 第5回:「書くこと」から見る「読むこと」の授業づくり(2)文学教材の分析 第6回:「書くこと」から見る「読むこと」の授業づくり(3)説明的文章教材の学習過程の指導と評価 第7回:「書くこと」から見る「読むこと」の授業づくり(4)文学教材の学習過程の指導と評価 第8回:「書くこと」から見る「読むこと」の授業づくり(5)学習後の指導と評価 第9回:「書くこと」から見る「読むこと」の授業づくり(6)学習記録・レポートの指導と評価 第10回:書く学習活動の評価と指導改善(1)学習前、学習過程・導入時 第11回:書く学習活動の評価と指導改善(2)学習過程・個人活動を中心に 第12回:書く学習活動の評価と指導改善(3)学習過程・集団活動を中心に 第13回:書く学習活動の評価と指導改善(4)学習過程・終末時、学習後 第14回:書く学習活動の評価と指導改善(5)学習記録 第15回:書く学習活動の評価と指導改善(6)レポート 定期試験 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・授業時に指示します。 ・授業で学習した観点を用いて、雑誌や実践書の実践、自身の実践を分析・検討しましょう。 【2~3回】図書館を利用して概説書を読み、ノートに知識を整理しましょう。 【4~9回】実践書や実践論文を複数集め、授業で学習した方法も用いて、分析・検討しましょう。 【10~15回】自身の実践の指導案を整理し、授業で学習した方法も用いて、改善しましょう。 ・計60時間程度以上取り組みましょう。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2011 | 科目名 | 国語科教育特講Ⅲ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D1-6030 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「国語科教育特講Ⅱ」と並行して、国語科の「読むこと」、特に説明的文章教材の指導の力量を高めます。具体的な教材や授業資料を分析しながら、授業づくりに関する要請と課題、授業改善の方法を具体的に理解します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・説明的文章教材の授業づくりに関する要請と課題を、教材分析に即して具体的に理解することができる。 ・授業改善の方法と、授業資料を分析する基本的な方法とを理解することができる。 |
| 評価方法 | 討議(20%)、授業参加状況(30%)、レポート(50%)によって評価します。 |
| 備考 | 提出された課題の解説と指導を、授業時に行います。その際に、復習(理解の確認など)とともに、必要に応じて発展的内容について学習します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業時に指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:オリエンテーション 説明的文章教材の指導に関する要請 第2回:説明的文章の指導の概観(1)目標・評価 第3回:説明的文章の指導の概観(2)内容 第4回:授業づくりの課題(1)教材分析と学習活動の設定:「筆者」の扱いを中心に 第5回:授業づくりの課題(2)教材分析と学習活動の設定:図表の扱いを中心に 第6回:授業づくりの課題(3)教材分析と学習活動の設定:補助資料の扱いを中心に 第7回:授業づくりの課題(4)「比べ読み」 第8回:授業づくりの課題(5)「批評」 第9回:授業づくりの課題(6):「振り返り」と学習主体の育成 第10回:授業改善の方法(1)概観 第11回:授業改善の方法(2)アクションリサーチ 第12回:授業改善の実際(1)指導案 第13回:授業改善の実際(2)授業記録 第14回:授業改善の実際(3)アクションリサーチ報告書:指導と評価を中心に 第15回:授業改善の実際(4)アクションリサーチ報告書:指導主体を中心に 定期試験 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・授業時に指示します。 ・授業で学習した観点を用いて、雑誌や実践書の実践、自身の実践を分析・検討しましょう。 【2~3回】図書館を利用して概説書を読み、ノートに知識を整理しましょう。 【4~9回】実践書や実践論文を複数集め、授業で学習した方法も用いて、分析・検討しましょう。 【10~15回】自身の実践の指導案を整理し、授業で学習した方法も用いて、改善しましょう。 ・計60時間程度以上取り組みましょう。 |
| 免許・資格 | 中・高専免(国語) |
| 免許・資格の科目区分 | 大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A2012 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文のテーマに関して、基礎的な研究を行う。先行研究(文献)の調査と整理、関連資料の収集と整理を行いながら、考察をすすめ、課題を発見し併せて研究方法を検討することを目的とする。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 自分で問題点を発見し、その位置づけを確認した上で仮説を立て、検証することで、体系性と独創性を兼ね備えた研究の基礎力を養 2) 日本とは何かを考察することで、自分の日本語・日本文化観を持つ |
| 評価方法 | 発表・質疑応答(20%)・レポートの内容(60%)、参加状況、研究意欲等(20%)から総合的に評価する。 |
| 備考 | 課題に対するフィードバックは、授業や面談を通して行う。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に指定しません。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回:オリエンテーション 第2回:研究テーマの確認 第3回:研究テーマの確認 第4回:研究テーマの確認 第5回:先行研究(文献)の調査と整理 第6回:先行研究(文献)の調査と整理 第7回:先行研究(文献)の調査と整理 第8回:中間まとめ 第9回:研究内容の修正 第10回:研究内容の修正 第11回:関連資料の収集と整理 第12回:関連資料の収集と整理 第13回:先行研究の考察 第14回:先行研究の考察 第15回:小論文の作成 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 自己のテーマに関する関連文献資料の中から、体系的かつ独創的な研究ができるように選択されたものを事前配付します。予習で1時間は読み込み、また、授業での討議を経て生じた課題を確認しながら、復習では資料の再読及び自己の研究への活用法の検討を1時間、計30時間上は行うこと。文献研究と共に、日常生活も含めて日々の体験からも学びながら、自己の研究を完成させてください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2013 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅰ」に引き続き、修士論文で扱うテーマを中心に、研究します。各自の研究テーマに関連する先行研究や基本文献の収集と問題点の整理・分析を行います。さらに関連する史資料を収集し、分析・批判を通して、各自の研究の観点や方法を見出すことを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1. 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門知識・技能 2. 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3. 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 2年次において、円滑に修士論文を作成できる状態にしておくことが目標です。具体的には、(1)先行研究の収集と問題点の整理を行うことができるとともに、(2)各自見出した研究の観点や方法により、研究計画を立て、自主的に研究を進めることができることを目指してほしいと思います。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況・意欲(20%)および研究テーマに基づく発表内容(30%)・レポート(50%)により総合的に評価します。 |
| 備考 | 課題やレポートを実施した際には、その都度返却し、解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に指定しません。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 各自の研究テーマに関連する先行研究・基本文献ならびに関連史資料を広く収集し、整理・分析を行います。これらは鵜呑みすることなく批判的に読み取り、常に問題意識を持つことが肝要です。そのうえで、卒業論文の執筆に向けた研究計画を常に確認しましょう。自主的に研究が進められるよう、研究テーマに基づく発表を行います。 第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマ・研究計画の確認 第3回 先行研究の分析① 第4回 口頭発表① 第5回 先行研究の分析② 第6回 口頭発表② 第7回 研究対象基本文献の分析① 第8回 口頭発表① 第9回 研究対象基本文献の分析② 第10回 口頭発表② 第11回 研究対象関連史資料の分析① 第12回 研究対象関連史資料の分析② 第13回 口頭発表 第14回 研究計画の再検討 第15回 まとめ 今後の課題の確認 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 予習として、発表資料を作成するための準備作業、復習として、ディスカッションによる意見をふまえた発表資料の修正などを行って、学びの定着を図ってください。 卒業論文の成果を活かし、さらに研究テーマに関する考察を深められるよう、積極的にいろいろな研究に目を向けてください。そこから自身の研究目的の明確化や、各自の歴史観の構築につなげていきましょう。 先行研究・基本文献はもとより、関連史資料を分析・批判するスキルを身につけ、修士論文の完成に向け取り組みましょう。図書館や博物館を積極的に活用しましょう。 15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2014 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 研究テーマに関連する資料や文献を収集・整理・検討し、問題点を明確にし、考察を深めます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻の以下のディプロマ・ポリシーに関連します。 「現代文化専攻いずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」 「自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果」 「知識基盤社会の発展に貢献できる実践力」 |
| 到達目標 | ・テーマに関連した考古資料を収集し、分類・整理ができるようになる。 ・研究史を踏まえ、テーマに関する問題点を明確にできるようになる。 |
| 評価方法 | 研究テーマに基づく発表(40%) 研究への取り組みの姿勢(40%) 課題レポート(20%) |
| 備考 | 課題等のフィードバックは教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | とくに指定しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーションー研究の意義と方法ー 第2回 実見資料の整理 第3回 実見資料の分析 第4回 実見資料の検討 第5回 研究史の再検討 第6回 資料全体の分析・検討 第7回 テーマの考察 第8回 図版の作成 第9回 地名表の作成 第10回 集成表の作成 第11回 論文の作成①ー研究の意義と方法ー 第12回 論文の作成②ー研究史ー 第13回 論文の作成③ー資料紹介ー 第14回 論文の作成④ー分析・考察ー 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習 課題発見学習 課題解決学習 プレゼンテーション その他(ディベート) |
| 準備学習(予習・復習) | 考古資料や文献資料を積極的に収集し、研究テーマの現状や問題点を的確に把握しましょう。そのためには先行研究の検討が大変重要です。そして、それらの研究を批判的に読み取る能力を養ってください。1回の授業につき、毎回4時間以上の予習・復習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2015 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅰ」に引き続き、各自の研究テーマに関連する先行研究の調査・収集と整理を行います。さらに先行研究の批判を通して、各自の研究の観点や方法を見出すことを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 先行研究の調査・収集と整理を行うことができる 2) 見出した研究の観点や方法に基づき、研究計画を立てて自主的に研究を進めることができる |
| 評価方法 | 研究対象作品の分析発表(30%) 研究テーマに基づく発表(40%) 最終レポート(30%) |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に指定しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 各自の研究テーマに関連する先行研究を広く調査・収集し、それらの整理を行います。そして重要な先行研究について批判的に読み取り、各自の研究に必要な観点や方法の獲得に努めます。その上で、修士論文の執筆に向けた研究計画を立て、自主的に研究が進められるよう、各自の研究テーマに基づく発表を行います。 第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマの確認 第3回 先行研究の調査・収集 第4回 先行研究の分析 第5回 研究対象作品の分析① 第6回 調査に基づく口頭発表① 第7回 研究対象作品の分析② 第8回 調査に基づく口頭発表② 第9回 先行研究の分析 第10回 研究対象作品の分析③ 第11回 調査に基づく口頭発表③ 第12回 研究対象作品の分析④ 第13回 調査に基づく口頭発表④ 第14回 研究計画の再検討 第15回 まとめ 今後の課題の確認 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 予習として、発表資料を作成するための準備作業、復習として、ディスカッションによる意見や添削をふまえた新たな調査や発表資料を修正する作業を行って、学びの定着を図ってください。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 卒業論文の成果を生かし、さらに研究テーマに関する考察を深められるよう、積極的にいろいろな研究に目を向けてください。そこから自身の研究目的の明確化につなげていきましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2016 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅰ」に続き、中学校・高等学校の国語科に関して、実践研究の力量を高めるための授業です。「日本語文化特別演習Ⅰ」で設定した研究課題と方法、計画に沿って進めていきます。その過程で実践を観察、分析、評価・改善する力を育成します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・研究課題に即して、具体的な指導方法、指導計画を設定することができる。 ・実践を観察、分析、評価・改善する方法を身につけることができる。 |
| 評価方法 | 討議(20%)、授業参加状況(30%)、レポート(50%)によって評価します。 |
| 備考 | 取り組んだ課題について授業時にフィードバックを行います。その際に、ディスカッションを通して、表現や論理の一貫性ととも、必要に応じて関連する内容について指導します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 資料を配布します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 研究課題・方法・計画の確認 第2回 先行研究の検討(1) 研究史の整理と課題 第3回 先行研究の検討(2) 行政資料の整理と課題 第4回 先行研究の検討(3) 課題の焦点化 第5回 中間発表(1) 第6回 論文の構成の確認 第7回 実践の構想 実践史の整理と課題 実践の方法上の課題 第8回 実践とその改善(1) 学習者の反応分析 第9回 実践とその改善(2) 実践の評価と改善 第10回 論文の記述(1) 主張 第11回 論文の記述(2) 説得 第12回 論文要旨の作成 第13回 論文の発表 資料の構成 第14回 論文の発表 プレゼンテーションの工夫 第15回 一年間の研究の成果と課題 グループディスカッション |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・研究ノートを作成し、具体的な研究計画を記しましょう。また、研究活動を毎日記録しましょう。 ・実践を分析し、評価・改善する力量を高めるために、地域の公開授業研究会等に積極的に参加しましょう。 ・計60時間程度以上取り組みましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2017 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 修士論文のテーマ設定に向けて、基礎的な研究を行います。関連資料の収集・分析、先行研究の調査・検討などを通じて問題の発見や研究方法を習得するのがねらいです。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ○問題を正しく設定することができる。 ○問題解決のための正しいアプローチ方法を見つけることができる。 ○関連資料・先行研究等の分析(適切な利用)ができる。 ○分析結果を的確にまとめ、文章化できる。 ○計画に基づき研究を進めることができる。 |
| 評価方法 | 授業への参加状況(20%)、討議における質疑応答(20%)、レポート(60%)をもとに、総合的に評価します。 |
| 備考 | レポート課題等のフィードバックについては授業の中で説明します。 国内の学会、研究発表会等へ積極的に参加をして下さい。 |
| テキスト・教材・経費等 | 研究テーマに沿った文献を適宜紹介・配付します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:現状の把握、計画書の修正① 第2回:論文作成① 第3回:論文作成② 第4回:論文作成③ 第5回:論文作成④ 第6回:中間報告会、計画書の修正② 第7回:論文作成⑤ 第8回:論文作成⑥ 第9回:論文作成⑦ 第10回:論文作成⑧ 第11回:論文作成⑨ 第12回:校正、修正① 第13回:校正、修正② 第14回:論文総括、発表会資料、要旨作成 第15回:発表会プレ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 授業外学習時間の目安 (予習120分)関連文献の読み込み、作品読解、レジュメ作成など (復習120分)論文作成 ※15回の授業を通して、計120時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2018 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文に向けた研究テーマを設定し、そのテーマに沿って調査研究を進めます。具体的には、作家についての伝記的資料、作品の同時代評、先行研究、同時代言説、作品に登場する事象についての資料を、順次収集し、それらについてレジュメに基づいて口頭発表を行います。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマ・ポリシーのうち、本授業で身につけることを目指す知識や能力は以下のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・修士論文のテーマを設定することができる ・修士論文のテーマについての先行研究を収集し、研究史をまとめることができる ・修士論文で扱うテキストについて新しい知見を提示するための、ふさわしい補助線を見つけることができる |
| 評価方法 | 修士論文研究計画書(50%)、レジュメ(25%)、口頭発表(25%) |
| 備考 | 【フィードバックの方法】 発表の内容についてはその場でコメントします。 レポートについては個別面談の場でフィードバックします。 |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 テーマ設定 第3回 作者についての調査 第4回 同時代の文学史についての調査 第5回 先行研究収集① 第6回 先行研究収集② 第7回 研究史のまとめ 第8回 テーマの再検討 第9回 予備日(必要に応じてさらなる資料収集) 第10回 物語内の事象に関する同時代資料の調査① 第11回 物語内の事象に関する同時代資料の調査② 第12回 テーマの再検討 第13回 修士論文研究計画書の執筆 第14回 修士論文研究計画書の再検討 第15回 まとめ、春季休暇中の課題について |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 修士論文のテーマを具体化し、実際に執筆を開始してください。そのために必要な以下の事柄を授業外学習として自主的に行ってください。 ・本学および他大学図書館での資料収集 ・(必要であれば)国立国会図書館、国文学研究資料館等での資料収集 ・書店や古書店での資料購入 ・学会や研究会への出席 上記を含め、後期全体で計60時間以上の授業外学習が必要です。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2019 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文のテーマに関して、基礎的な研究を行う。作品の分析、関連資料の収集と整理、先行研究論文の検討を通して問題点の発見、研究の方法について考察する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連しています。 1、現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2、自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3、知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 修士論文のテーマに沿い論文に仕立てる力。 構成・表現を工夫する力。 |
| 評価方法 | 演習発表(30%)、レポート(40%)、小レポート(30%) |
| 備考 | 課題やレポートを実施した際にはその都度、返却し解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 研究テーマに従って、各自用意する。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 各自が計画をたて、それによって演習を進めて行く。 第1回 オリエンテーション・発表計画 第2回 修士論文について 作品分析① 第3回 修士論文について 作品分析② 第4回 修士論文について 作品分析③ 第5回 修士論文について 作品分析④ 第6回 修士論文について 作品分析⑤ 第7回 修士論文について 作品分析⑥ 第8回 修士論文について 作品分析⑦ 第9回 修士論文について 作品分析⑧ 第10回 修士論文について 作品分析⑨ 第11回 修士論文について 作品分析⑩ 第12回 修士論文について 作品分析⑪ 第13回 修士論文について 作品分析⑫ 第14回 修士論文について 作品分析⑬ 第15回 修士論文について 作品分析についての補足発表、まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 先行研究の調査、研究テーマの精査、修士論文の作成。(授業1回につき4時間×15回、合計60時間) |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2020 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6050 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅰ」に引き続き、各自のテーマに基づいて、研究発表を行います。先行研究を熟読し、日本語研究の中での研究の意義を位置づけながら、研究を推敲していきましょう。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 関連する現代文化専攻のディプロマポリシーは次の3点です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | (1)日本語史上の課題を自ら発見し、それを明らかにする目的と意義を論理的に説明できる。 (2)課題解決に必要な情報を収集し、批判的・分析的に整理・考察することができる。 (3)資料や先行研究から得た成果を再構成し、分かりやすく資料化したり発表したりできる。 |
| 評価方法 | 授業参加状況(15%)・課題への取り組み方(45%)・発表内容(40%)によって総合的に判断します。 |
| 備考 | 発表準備を課題とし、授業内でフィードバックを行います。 学会や研究会、隣接する分野の授業に参加することは研究にとって大きな刺激です。積極的に学問の場に参加してください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業内で適宜紹介します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 受講生による発表1 第3回 受講生による発表2 第4回 受講生による発表3 第5回 受講生による発表4 第6回 受講生による発表5 第7回 受講生による発表6 第8回 受講生による発表7 第9回 受講生による発表8 第10回 受講生による発表9 第11回 受講生による発表10 第12回 受講生による発表11 第13回 受講生による発表12 第14回 受講生による発表13 第15回 受講生による発表14 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 各自の興味に基づいて、先行研究や資料の読み込みを行ってください。学会参加を含め、最新の知見を常に取り入れるよう、アンテナを張っておきましょう。また、授業内の討議によって得た視点を、積極的に反映させてください。図書館をどんどん利用し、合計60時間以上をかけて、授業の準備学習を行いましょう。また、質問があれば、研究室を訪ねてください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|--------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A2021 | 科目名 | 言語学特講Ⅱ（言語科学） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D7-6020 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 認知言語学の立場から言語考察で、前期の内容の継続である。守備範囲とする考察対象は前期に類するが、基礎的なものから発展的な理解を目指していく。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 『高度な言語コミュニケーション技術の修得』や『英語教員や日本語教員をめざした高度な専門的知識・技術の養成』という教育目標に関連しています。 |
| 到達目標 | 言語は固定的なものではなく、人間の成長と共に動的に発展していくものであることを、英語及び日本語の様々な事例を通して理解していく。 |
| 評価方法 | レポートと参加状況により評価する。 |
| 備考 | 語に関心を持ち、英語学習を深めていくことに役立ててほしい。 |
| テキスト・教材・経費等 | 深田 智・仲本康一郎. 2008. 『概念化と意味の世界』研究社. |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知言語学の基本的フレーム 2. 語の多義性とメタファー 3. 語の多義性とメトニミー 4. 事態把握と文型(自動詞) 5. 事態把握と文型(他動詞) 6. 辞書学 7. 語のプライミング:意味的観点 8. 語のプライミング:文法的観点 9. 語のプライミング:語用論的観点 10. 語とコーパス言語学: BNCの場合 11. 語とコーパス言語学: Antconcの使用例 12. 文学作品の語の分析 13. 語の第二言語習得: 英語と日本語の比較 14. 語の第二言語習得: コロケーションと言語使用 15. 講義のまとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 前期において学習した認知言語学の内容を復讐して、一定の理解力をもって後期の授業を受講してもらいたい。認知言語学を通してどのような知見が新たに得られたか、英語であれ日本語であれ、文章を読むときに、その学んだ視点を自覚(メタ)して、読解力を深めていったほしい。そのような実践を通して初めて言語を見る見方が本当に自分のものになるのだと思います。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2022 | 科目名 | 言語学特講Ⅳ（応用言語学） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D7-6040 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | This course aims to sensitize students to discourse and pragmatic features of written communication by a comparison of English and Japanese texts. This course builds on the spring semester course: 言語学特講Ⅲ. |
| ディプロマポリシーとの関連 | Educational goals are to help nurture the ability to discern and understand the language and culture of English, including the ability to see how culture influences communication patterns and styles, and to apply this knowledge for the betterment of society. |
| 到達目標 | To improve your English reading ability and understanding of the basic pragmatic functions of spoken and/or written English and Japanese leading to a better understanding of how humans use language to communicate. |
| 評価方法 | Class preparation & participation, literacy autobiography, text analysis report, open-book exam. |
| 備考 | The exact content of this course will be determined based on the needs and interests of the students. |
| テキスト・教材・経費等 | The textbook we use depends on progress in 言語学特講Ⅲ in the spring. We may use instructor supplied materials or Pragmatics by George Yule, Oxford, 1999. |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | After a brief introduction to the field of contrastive rhetoric and literacy studies, we will examine patterns of difference in written communication holistically through a study of written communication styles. We will then proceed to an analysis of English and Japanese texts for features, such as directness, linearity, cohesion and digressiveness. Texts will be chosen primarily from English and Japanese newspapers with a focus on editorials. Students will be expected to complete a small text analysis project. Major course topics and sequence will be as follows: introduction to contrastive and classical rhetoric; literacy studies; written communication styles; analysis of written texts; English and Japanese style manual comparisons; text analysis and presentations. |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | Preview: Read chapters as well as you can before class, but don't expect to understand 100 percent the first time. List and study key vocabulary and expressions and be ready to ask questions about what you do not understand in class. Review: Take notes in class. |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2023 | 科目名 | 言語学特講VI (対照言語学) | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | |
| ナンバリング | 7D7-6060 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 日本語の構文を中心に、英語と比較・対照していき、両言語の類似点・相違点を見ていく。最終的に研究発表を行ってもらおう。授業内でディスカッションを行い、問題発見を行っていきます。授業内で発見した問題点や疑問点を、先行研究の精読・分析を通して、問題解決に至るアクティブ・ラーニングを実施します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 欧米言語文化研究の目標である『高度な言語コミュニケーション技術の修得』に関連しています。 |
| 到達目標 | 日本語と英語の類似点・相違点を見ていき、両言語を比較していく力を養っていく。 |
| 評価方法 | 平常点、発表、レポートにより評価します。 |
| 備考 | 本授業ではハイウェイやClassroomを多用していく中で、課題に対するフィードバックもオンラインで行っていきます。 |
| テキスト・教材・経費等 | 『認知構文論』山梨正明 大修館書店 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回:言葉の創造性について 第2回:カテゴリー化 第3回:用法基盤モデル 第4回:イディオム 第5回:イディオムと意味の相互作用 第6回:用法基盤モデルと言葉の創造 第7回:修辞用法 第8回:語用論と認知構文論 第9回:発話行為 第10回:レトリック 第11回:慣用的構文 第12回:認知言語学の中の構文研究 第13回:構文の習得 第14回:構文文法の文法観 第15回:まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 授業中に参考資料を指示します。その資料を精読しハンドアウト作成して発表してもらいます。発表後に課題点をまとめてもらい、修士論文執筆に役立てていきましょう。授業の前後で週4時間程度の授業時間外学習が必要です。 |

| | |
|------------|-------------|
| 免許・資格 | 中・高専修免許(英語) |
| 免許・資格の科目区分 | 英語の教科に関する科目 |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2024 | 科目名 | 言語学特講Ⅷ（英語学） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D7-6080 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | グローバル言語としての英語に関する基本的文献を精読する。David Crystal, English as a Global Languageを読む予定であるが、受講者が確定次第、受講者と相談の上決めたい。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | global languageとなった英語が抱える様々な問題を扱った文献を精読する事によって、言語の問題に反映された現代の世界が直面する様々な課題を読み解く。 |
| 到達目標 | 言語学特講Ⅶ(英語学)で掲げた目標を、さらに深めていく。すなわち、英語による文献を読む事で原書購読力を充実させるとともに、global化した英語が直面する諸課題についてのより深い洞察力・分析力を身につける。 |
| 評価方法 | 受講態度、レポート、講義での発表内容、などを総合的に評価する。 |
| 備考 | 報告や発表に対するフィードバックは、基本的に講義時間内におこなう。 |
| テキスト・教材・経費等 | テキストが決まれば購入してもらう事もあるし、また担当者より適宜プリントを配布する事もある。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <p>毎回受講者がテキストあるいはプリントの一定範囲を調べてきてレジュメにまとめ、セミナーで発表しお互いに議論を交わす。</p> <p>第1回: Introduction 第2回: 英語のあそび(1) 言語自体が笑いの対象になる 第3回: 英語のあそび(2) ワードゲーム 第4回: 英語のあそび(3) サウンドシンボリズム 第5回: 英語と個人的特性(1) 書き手の検索 第6回: 英語と個人的特性(2) 逸脱した英語 第7回: 英語の歴史について 第8回: Old English について 第9回: Middle English について 第10回: Early Modern English について 第11回: 世界の英語について 第12回: イギリス英語とアメリカ英語 第13回: 今日の英語 第14回: 明日の英語 第15回: まとめ</p> |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 英語学者の著作、あるいは論文をじっくりと読んで、講読力を高める努力を継続してほしい。講義以外の準備に要する時間は、60時間以上。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2025 | 科目名 | 欧米文学特講Ⅱ（近代イギリス文学） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D7-6100 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | イギリス世紀末の言語芸術を担った芸術家に焦点をあてて研究します。時代的、思想的、文化的視点から、体系的な理解を深めるために、ヨーロッパ文化との相対的な影響関係にも配慮し、世紀末文化を担った芸術家を多面的に考察します。イギリス世紀末に決定的な影響力を及ぼしたOscar Wildeを中心にして時間があればほかの作家も取り上げる。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 関連するディプロマポリシーは次のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | イギリス世紀末の特に、詩人、劇作家など言語芸術に直接携わった人々について、背景的理解と基本的な知識を習得すると共に、当時の文学の概観を把握することが目標です。又、当然のことながら、英語の正確な読書力を高めます。 |
| 評価方法 | 授業の参加状況、レポート(60パーセント)と試験(40パーセント)など総合的に判断して評価します。 |
| 備考 | 受け身ではない積極的な受講を希望します。課題等のフィードバックは担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 追って指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 イン트로ダクション 第2回 オスカー・ワイルドを巡る人々1 Speranza 第3回 オスカー・ワイルドを巡る人々2 William Wilde 第4回 オスカー・ワイルドを巡る人々3 Dr. Murphy 第5回 オスカー・ワイルドを巡る人々4 Constance Lloyd 第6回 オスカー・ワイルドを巡る人々5 Reginald Harding 第7回 オスカー・ワイルドを巡る人々6 Colonel Morse 第8回 オスカー・ワイルドを巡る人々7 R.H. Sherard 第9回 オスカー・ワイルドを巡る人々8 John Ruskin 第10回 オスカー・ワイルドを巡る人々9 Walter Pater 第11回 オスカー・ワイルドを巡る人々10 Max Beerbohm 第12回 オスカー・ワイルドを巡る人々11 Edward Curson 第13回 オスカー・ワイルドを巡る人々12 Stephane Mallarme 第14回 オスカー・ワイルドを巡る人々13 Lod Alfred Douglas 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 発見学習、問題解決学習、調査学習、ディベート学生の能動的な学習活動 |
| 準備学習(予習・復習) | 授業の進行にあわせて、事前に課題を読んでおく、自分の考えをまとめて資料を作っておくなどの準備学習が必要となります。毎回の授業毎に、授業内容をノートにまとめる復習も重要です。詳細は各授業毎に担当者が指示します。計60時間以上。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2026 | 科目名 | 欧米文学特講Ⅳ（現代アメリカ文学） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7D7-6120 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | William Faulknerの短編小説「Dry September」を取り上げます。毎回担当者を決め、作品を一字一句丹念に読み、解釈上の問題点などを討論していきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | この科目は現代文化専攻国際言語文化研究科の研究領域「英米文化・文学」に関して、現代文化研究科の次のディプロマポリシーに関連しています。 1 高度な専門知識・技能を身に付けている。 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果をあげている。 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力を身に付けている。 |
| 到達目標 | Faulkner作品を読み得る英語力を付け、さらに作品について語る批評の力、異なる意見に対する批判力、論理的に語る討論の力も付けることを目指します。 |
| 評価方法 | 期末レポート(30%) 担当箇所のコメント(30%) ディスカッションでのコメント(30%) 授業参加状況(10%) |
| 備考 | 課題等のフィードバックは授業内に行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「Dry September」 William Faulkner プリント配布 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 インTRODクシヨN(作品成立の背景) 第2回 「Dry September」精読1 物語の設定を中心に 第3回 「Dry September」精読2 情景描写の特徴を中心に 第4回 「Dry September」精読3 会話文の特徴を中心に 第5回 「Dry September」精読4 語り手を中心に 第6回 「Dry September」精読5 登場人物を中心に 第7回 「Dry September」精読6 作品のテーマを中心に 第8回 「Dry September」精読7 階級問題を中心に 第9回 「Dry September」精読8 人種問題を中心に 第10回 「Dry September」精読9 ジェンダー問題を中心に 第11回 「Dry September」精読10 表現と内容の関係をを中心に 第12回 批評研究 1 批評史について 第13回 批評研究 2 テーマ論／文体論について 第14回 批評研究 3 物語論について 第15回 批評と解釈 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 小説精読は毎回4ページくらい進みます。 批評研究は毎回20ページくらい進みます。しっかり予習してください。 批評研究はレジュメを準備する必要があります。 準備学習計60時間以上。 |
| 免許・資格 | 中・高専修免 |
| 免許・資格の科目区分 | 英語の教科に関する科目 |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|----------|------|----|
| 時間割番号 | 7A2027 | 科目名 | 英語教育学特講Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D1-6100 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 英語教育学の理論を深めるために、理論と洞察を深めるため、英語教育学における様々な課題について、文献や論文を講読することによって、理論を確認するとともにディスカッションを行いながら、課題に取り組む力を育成する。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | この科目は現代文化専攻・国際言語文化の「高度な言語コミュニケーション技術の修得」や「英語教員や日本語教員をめざした高度な専門的知識・技術の養成」という教育目標に関連しています。 |
| 到達目標 | 【知識・理解】英語教育学に関する基礎知識を持ち、適切な文献を読むことができる。 【技能・表現】適切な指導法を考慮し、発展させることができる。 【思考・判断】英語教育学の課題を分析することができる。 【関心・意欲・態度】自ら課題を探し、それに対して取り組むことができる。 |
| 評価方法 | 授業参加状況(30%)、レポート(50%)、プレゼンテーション(20%)などにより総合的に評価する。 |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | プリントを配布します。 ▽参考書:適宜、指示します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回: イントロダクション 第2回: 英語教育学の研究方法 第3回: 第二言語習得の研究(1) 第4回: 第二言語習得の研究(2) 第5回: 指導に必要な言語学 第6回: 英語を理解する力の育成方法 第7回: リーディング指導の課題 第8回: リスニング指導の課題 第9回: 文法指導の課題 第10回: 教材作成の課題 第11回: 英語を発信する力の育成方法 第12回: ライティング指導の課題 第13回: スピーキング指導の課題 第14回: プレゼンテーション 第15回: まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 各回、自分なりの課題を持ち、その課題を解決しようと取り組んでください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|-----------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A2028 | 科目名 | 日本語教育学特講Ⅱ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 |
| ナンバリング | 7D9-6020 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 前期に続き、受講生の関心ある日本語教育学のテーマに基づき、論文を選び、精読します。学期末には小論文を提出してもらいます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 日本語教員として自立できる力を養うことにつなげる。 |
| 到達目標 | 関心がある分野を確定すること。 |
| 評価方法 | 課題【60%】、参加状況(20%)、プレゼン((20%) |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1 : オリエンテーション 2～14: 講義・ディスカッション 15 : 小論文発表 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 日本語教育の中の分野で、どの分野に自分は一番興味があるのかをできるだけ早く見つけるように努力してください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2029 | 科目名 | 国際言語文化特別演習Ⅱ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | 7D1-6120 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | QuirkやCrystalなど英語学者の著作をすこしづつ読み進む予定にしている。それによって、英語の構造や用法にどのような問題が存在しているか言語学的認識を深めるとともに、あわせてそれに付随して言語文化的認識も深める。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 英語学者の著作を読みながら、英語の抱える問題を認識し、さらには現代英語文化圏の直面する諸課題を捉えていく。 |
| 到達目標 | 英語に関して書かれた文献を精読する事を通して原書購読力の充実をめざすとともに、現代英語ならびに英語文化の抱える諸課題に対する認識をもつ。 国際言語文化特別演習Iで掲げた目標の一層の徹底を図る。 |
| 評価方法 | 受講態度、レポート、演習での発表内容等を総合的に評価する。 |
| 備考 | 報告や課題に対するフィードバックは、基本的に演習時間内に行う。 |
| テキスト・教材・経費等 | 受講者と相談の上テキストを選ぶ。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 毎回担当を決めて、各自のテーマに沿った資料あるいは材料を集めた上で、レジュメにまとめ、それをゼミで発表してもらう。 発表内容に対して、活発に議論をかわし、論文の完成に資する。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | じっくりと英語の文献を読み、そこからどのような言語的、あるいは言語文化的情報を読み解くか、その目を養っていく意志をもってほしい。 事前・事後の準備・見直しに要する時間は、最低でも60時間を要する。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2030 | 科目名 | 国際言語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6120 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 履修学生の関心を持つ分野を日本語教育学から選び、論文を読むことにより基礎的な知識獲得を目指します。学期末に小論文を発表してもらいます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 日本語教育の意義を理解し、日本語教員として自立できる力を養うことにつなげる。 |
| 到達目標 | 学期末までに修論のテーマを確定すること。 |
| 評価方法 | 課題【60%】、参加状況(20%)、プレゼン((20%) |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | 特になし |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 1 : オリエンテーション 2~14: 通常授業 15 : 小論文発表 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 日々の努力の積み重ね |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2031 | 科目名 | 国際言語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6120 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 「欧米言語文化特別演習Ⅰ」に続いてアメリカの言語芸術の基礎的研究をします。特に、20世紀の小説、映画、音楽などの作品を扱います。受講生の興味関心にあわせた作品を取り上げる予定です。作品を鑑賞し、批評する技能を磨き、自分の解釈を論理的に構成されたレポートにまとめ上げ、さらに口頭発表する技能を身につけます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | この科目は現代文化専攻国際言語文化研究科の研究領域「英米文化・文学」に関して、現代文化研究科の次のディプロマポリシーに関連しています。 1 高度な専門知識・技能を身に付けている。 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果をあげている。 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力を身に付けている。 |
| 到達目標 | 修士論文の書き方を理解する。 修士論文全体の構想を練り上げる。 効果的な研究発表ができる。 積極的に授業で発言することができ、他者と協力してディスカッションができる。 |
| 評価方法 | 課題レポート(30%) 担当箇所のコメント(30%) ディスカッションでのコメント(30%) 授業参加状況(10%) |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | プリントを使用します |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 インTRODakション 修士論文執筆にむけてスケジュールの確認 第2回 研究作品の紹介 作品執筆の背景 第3回 研究作品の研究テーマ 登場人物研究 第4回 研究作品の紹介 物語の設定 第5回 研究作品の研究テーマ 時代と社会研究 第6回 研究作品の紹介 スタイルの特徴 第7回 研究作品の研究テーマ 文体研究 第8回 研究作品の紹介 いろいろなテーマ 第9回 研究作品の研究テーマ テーマ研究 第10回 研究作品の紹介 スタイルとテーマの関係 第11回 研究作品の研究テーマ 物語論研究 第12回 修士論文の全体構想 第13回 効果的な研究発表とは 第14回 研究発表レジュメの構成 第15回 研究発表会 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 修士論文作成のためのノート作りに努めて下さい。担当箇所のレジュメを毎回作る必要があります。準備学習計90時間以上。 |
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2032 | 科目名 | 国際言語文化特別演習Ⅱ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | 7D1-6120 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | This seminar is a continuation of 国際言語文化特別演習Ⅰ offered in the spring. The aim is to do basic research that will further establish your master's thesis topic. Various topics will be considered, but the instructor is best able to assist students with research in spoken and written discourse or selected topics in culture and intercultural communication. |
| ディプロマポリシーとの関連 | Educational goals are to help nurture the ability to discern and understand the language and culture of English, including the ability to see how culture influences communication patterns and styles, and to apply this knowledge for the betterment of society and the self. |
| 到達目標 | To obtain the ability to narrow and research your topic. To develop the English reading, oral and written expression skills necessary to communicate your findings. |
| 評価方法 | Final report, presentations and overall effort. |
| 備考 | This course will be conducted in English. |
| テキスト・教材・経費等 | To be determined in class |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1: Refine your research topic. 2: Locate and acquire additional books and research materials. 3: Reading, note taking, progress presentations. 4: Summarize the results in a final term report. |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | Brainstorm and narrow your topic early so that you can manage your time effectively. Take good reading notes so that you will not have trouble summarizing the results at the end of the term. |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2033 | 科目名 | 国際言語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6120 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 欧米言語文化特別演習Ⅰで学んだ研究をさらに深めます。特に、イギリスの世紀末の言語芸術である詩、散文、演劇、音楽等の作品を研究対象として、時代的、思想的、文化的視点から、体系的な理解を深めますために、ヨーロッパ文化との相対的な影響関係にも考慮し、世紀末文化を考察し、論文を完成するに至るノウハウを学ぶ。受講生の研究対象にあわせて、柔軟に対応する場合があります。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 国際的なコミュニケーション能力に優れた人材を育成するために、その一部である高度な教養の理解と研究の参考になるものを提供する科目です。 |
| 到達目標 | イギリスの言語芸術について、演習Ⅰで学んだ概念的な理解と基本的な知識を生かして、その醍醐味を鑑賞できるようにすることが目的です。又、当然のことながら、英語での論文の書き方も習得します。 |
| 評価方法 | 毎回の参加状況、レポートや課題の提出等を、総合的に判断します。 |
| 備考 | 受け身ではない積極的な受講を希望します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 追って指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 インTRODクシヨN 第2回 ラスキN研究1 論文 第3回 ラスキN研究2 作品 第4回 ワイルド研究1生涯 前期 第5回 ワイルド研究2 生涯 後期 第6回 ワイルド作品購読1 第7回 ワイルド作品購読2 第8回 ワイルド作品購読3 第9回 ワイルド作品購読4 第10回ワイルド作品購読5 第11回ワイルド作品購読6 第12回ワイルド作品購読7 第13回ワイルド作品購読8 第14回ワイルド作品購読9 第15回まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 発見学習、問題解決学習、調査学習、ディベート学生の能動的な学習活動 |
| 準備学習(予習・復習) | 主体的に学んでいただきたいが、演習科目であるので、課題の予習に特に力を入れていただきたい。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2034 | 科目名 | 国際言語文化特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6120 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 修士論文作成に向けて、機能的統語論の点から日本語と英語の構文分析を行っていく。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 欧米言語文化研究の目標である『高度な言語コミュニケーション技術の修得』に関連しています。 |
| 到達目標 | この授業では、日本語と英語のさまざまな構文を観察していき、機能的・意味的な側面から分析を行う力を養っていく。 |
| 評価方法 | 平常点、レポートで評価します。 |
| 備考 | 毎回ハンドアウトを作成し、発表してもらいます。 |
| テキスト・教材・経費等 | 「日英語の機能的構文分析」高見 健一 鳳書房 4800円 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 視点の考え方 第2回 日本語の視点 第3回 英語の視点 第4回 代名詞の照応形について① 第5回 代名詞の照応形について② 第6回 日英語の照応形について① 第7回 日英語の照応形について② 第8回 日英語の照応形について③ 第9回 文と副詞の関係① 第10回 文と副詞の関係② 第11回 文と副詞の関係③ 第12回 談話文について① 第13回 談話文について② 第14回 談話文について③ 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 修士論文作成を意識して、毎回の発表テーマについてのハンドアウトを作成していき発表してもらいます。発表後に課題点をまとめてもらいます。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2035 | 科目名 | マスメディア特講Ⅱ（情報社会） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6020 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | マスメディアの研究テーマを踏まえて、情報社会を生きる根本的な意味を考える。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「メディア」を主要テーマに専門書を読み込む。 |
| 到達目標 | 情報社会の現在がどういう状況にあるかを知る。 |
| 評価方法 | 専門書を読みこなし、これからの課題について予見する力を評価する。 |
| 備考 | 大学において「情報」「メディア」を学んだことを前提に授業をすすめる。情報メディアに関する研究を志す人にはぜひ履修してほしい。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて専門書を提示する。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | ①～⑤ 『メディアの支配者 上・下』(中川一徳著)と現在のメディア状況。 ⑥～⑩ 『輿論と世論』(佐藤卓己著)と現在のメディア状況。 ⑪～⑮ 『2030年メディアのかたち』(坪田知己著)と新聞、テレビ。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | メディアの本質について理解を深めてほしい。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-----------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2036 | 科目名 | マスメディア特講Ⅳ（マスコミ） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6040 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 学生の問題意識を基本に据え、そのテーマにそって内容を組み立てる。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | ディプロマ・ポリシー1, 2にかかわっています。 1 講義・ゼミナール, さらにはフィールドワークなどの実践的な活動を通じて, 「話す・聴く・読む・書く」こと, そして, 「チームで取り組む」ことをくり返しトレーニングし, 社会人にふさわしいコミュニケーション能力を身に付けている。 2 テレビ・新聞などの在来メディアとインターネットなどの新しいメディアの双方に関する基礎知識を持ち, ビジネスの現場や地域社会において, 基本的な対応ができる「取材・調査・企画・制作・情報発信」などのスキルを身に付けている |
| 到達目標 | 学生が抱いた問題意識に基づいて, 調査や取材をし, 達成感が得られる。 |
| 評価方法 | 直近の情報収集力や, レポートの内容, 意欲によって評価する。マスコミの他科目と同様に, 4回欠席で不可, 遅刻2回で1回欠席に扱いにします。 |
| 備考 | 大学で「情報」「メディア」を学んだことを前提に授業をすすめる。 |
| テキスト・教材・経費等 | 必要に応じて専門書や資料を提示する。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 前期に引き続いて, 作業をする。 立てた問いに常に立ち返りながら, 集めた資料や情報を整理する。 全体像をつかみ, 幹と枝はの部分をし分けし, 論理の整合性に気を配りながら, 論文の形に整える。 * 一方的な講義ではなく, 共同作業となる。受身では何も進まないことを理解しておいてください。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | ペア・ワーク, グループ学習, 調査・実習, 課題発見学習, プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 検索によってひとつのテーマを極めていくという態度を養ってほしい。その都度指示する。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2037 | 科目名 | 情報管理特講Ⅱ（情報管理） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6080 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 本特講は「インターネットの情報管理」が主たるテーマですが、今年度は「オープンデータの活用可能性」を具体的なテーマとします。 オープンデータは政府・地方自治体・公的機関による情報公開の一環として注目を集めています。これらの機関からのデータをオープンソースの地理情報システムで目的志向的に集約し分析します。そして、その利活用を究明します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 情報社会におけるオープンデータについて認識を深めます。 |
| 到達目標 | オープンデータについて見識を深め、地理情報システムをとおしてその利活用の方向を認識することができます。 |
| 評価方法 | 課題に対するレポート・発表・議論をとおして評価します。 |
| 備考 | 「オープンデータ」について、ステップアップで授業を進めますので、「情報管理特講Ⅰ」(前期)からの受講を勧めます。 【レポート等のフィードバックの方法】一人ひとりに返却し、内容について指導します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業中に指示します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション、「情報管理特講Ⅰ」(前期)からの流れ 第2回 政府・自治体・企業の取り組みについて解説 第3回 オープンデータからビジネスへ: 解説と意見交換 第4回 オープンデータからビジネスへ: 事例研究(ケース1) 第5回 オープンデータからビジネスへ: 事例研究(ケース2) 第6回 オープンデータからビジネスへ: レポート作成 第7回 オープンデータの利活用の技法: 解説 第8回 QGIS(オープンソースのGIS): 解説(基礎編) 第9回 QGIS(オープンソースのGIS): 実習(基礎編) 第10回 QGIS(オープンソースのGIS): 解説(レイヤの使い方) 第11回 QGIS(オープンソースのGIS): 実習(レイヤの使い方) 第12回 QGIS(オープンソースのGIS): 解説(分析) 第13回 QGIS(オープンソースのGIS): 実習(分析) 第14回 QGIS(オープンソースのGIS): レポートの作成 第15回 総括 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 意見交換やレポート作成ができるように、情報収集を怠らないでください。 (準備学習時間: 全体で60時間以上) |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|---------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2038 | 科目名 | 情報管理特講Ⅳ（情報分析） | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6100 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 情報管理特講Ⅲに引き続き、ビット(情報)の概念とその意味について、ニコラス・ネグロポンテ著『ビーイング・デジタル ビットの時代』の精読を通じて分析論的に考察します。従って、情報管理特講Ⅲを履修済であることが条件です。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ①情報の本質が理解できること。 ②ビットの概念とアトムの概念が理解できること。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み状況とレポートにより、総合的に評価します。 |
| 備考 | 自然科学の知識があると、理解が深まります。 課題やレポートを実施した際にはその都度、解答と解説を行います。 |
| テキスト・教材・経費等 | ニコラス・ネグロポンテ著『ビーイング・デジタル ビットの時代』(アスキー) |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 受講生が主体となって文献を読み進めていきます。単に読み進めるだけでなく、途中で議論を加えることで理解を深めるようにします。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 受講生がプレゼンテーションを行う形式です。プレゼンテーション内容や方法について周知な準備を行って臨んでください。 自学自習総時間:60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|--------------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2039 | 科目名 | 情報管理特講VI (マーケティング) | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 講義 | | |
| ナンバリング | 7F2-6120 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | マーケティングは単なる道具ではなく、企業の姿勢を決める思想としての側面も存在します。レビットやドラッカーといったマーケティングの思想面を支える著述家の意見を学びます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 「マーケティングは顧客の満足を得るための技術や知識である」と定義づけられますが、技術偏重になってしまうのもかえって顧客が不満を覚える原因となってしまいます。レビットを読むことで技術志向に陥らず、顧客志向の姿勢を身につけることを目指します。 |
| 到達目標 | 「事業の目的は顧客を創造・維持するためにある。そのために必要なものはマーケティングとイノベーションである。」この言葉を残したドラッカーやドラッカーの思想をマーケティングに展開したレビットを精読します。 |
| 評価方法 | 輪読の担当(30%) 議論への貢献(30%) 文献の理解度(40%) |
| 備考 | 情報管理特殊講義V(マーケティング)を履修していることが望ましい。 課題やレポートを実施した際にはその都度、返却し解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | セオドア・レビット『マーケティング論』ダイヤモンド社 その他は配布します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | テキストおよび指定した資料の輪読を行います。 (1)ガイダンス (2)マーケティング近視眼 (3)購買意欲調査をめぐる狂騒曲 (4)アイデアマンの大罪 (5)製品ライフ・サイクルの活用 (6)岐路に立つブランディング (7)模倣戦略の優位性 (8)新市場への参入は慎重に (9)広告の倫理性をめぐる考察 (10)サービス・マニファクチャリング (11)市場の変化に即したマーケティング (12)マーケティングの成功条件は差別化にある (13)無形性のマーケティング (14)市場のグローバリゼーション (15)顧客との絆をマネジメントする |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習 |
| 準備学習(予習・復習) | 自学自習総時間:60 時間 指定された文献を精読し、発表の準備をしてください。 マーケティングをより深く理解する手段として、コトラー『マーケティング・マネジメント』、ドラッカー『マネジメント』などを事後でもよいので読んでください。また1960年代以降のアメリカ経済状況について勉強しておくことと文献内の事例が理解しやすいと思います。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2040 | 科目名 | 情報メディア特別演習Ⅱ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | 7F1-6020 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | この授業では、「情報メディア特別演習Ⅱ」にひきつづき、修士論文作成に向けて構想を精緻化していきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | これまでに学んだマーケティングの知識に基づき調査研究することをつうじて、研究対象のみならず、マーケティングへの理解をふかめます。 |
| 到達目標 | 情報メディア特別演習Ⅲ,Ⅳで修士論文を執筆していくことを念頭に、修士論文の構想を確実なものへとたかめていきます。 |
| 評価方法 | 研究報告と質疑応答(50%) マーケティングへの理解度(50%) |
| 備考 | ・課題やレポートを実施した際にはその都度、返却し解説します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 適宜、資料を配布します |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 研究テーマの発表 第2回 研究計画の作り方 第3回～第14回 進捗状況のプレゼンテーション 第15回 春期休暇中の調査計画の報告 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | ・修士論文の研究計画に基づいて、毎週、研究成果の報告を求めます。また指摘した箇所の改善も報告してもらいますので、その準備をしてください。 ・自学自習総時間 60時間 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|-------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A2041 | 科目名 | 情報メディア特別演習Ⅱ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7F1-6020 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 情報メディア特別演習Ⅰに引き続き、情報教育についての論文からプログラミング教育の現状と課題を理解します。その上で、プログラミング教育についての教育方法や教材開発を行う準備をします。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 論文を読んで、自分の言葉で解説できること。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み状況とレポートにより、総合的に評価します。 |
| 備考 | 情報教育関係の学会や研究会に参加することをお奨めします。 |
| テキスト・教材・経費等 | 情報処理学会・教育システム情報学会などの論文や研究報告 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 情報教育についての論文を読み、解説してもらいます。論文以外にもできるだけ多くの文献を読んで、日頃から知識を増やしておくことが必要です。それと同時に、修士論文の研究テーマを見付け出します。 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 受講生がプレゼンテーションを行う形式です。プレゼンテーション内容や方法について周知な準備を行って臨んでください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A2042 | 科目名 | 情報メディア特別演習Ⅱ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7F1-6020 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 自分が会いたいと思う人を選び、アポを取り、インタビューをして、文章を組み立てる。演習Ⅰとは別のジャンルの人を選ぶ。演習Ⅰで得たスキルをさらに磨き、さらにレベルの高いものに取り組む。とりわけ、文章については、構成をしっかりと考える。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | ディプロマ・ポリシー1, 2にかかわっています。 1 講義・ゼミナール, さらにはフィールドワークなどの実践的な活動を通じて、「話す・聴く・読む・書く」こと, そして、「チームで取り組む」ことをくり返しトレーニングし, 社会人にふさわしいコミュニケーション能力を身に付けている。 2 テレビ・新聞などの在来メディアとインターネットなどの新しいメディアの双方に関する基礎知識を持ち, ビジネスの現場や地域社会において, 基本的な対応ができる「取材・調査・企画・制作・情報発信」などのスキルを身に付けている。 |
| 到達目標 | きちんとしたインタビューができ、一定レベルの文章が書ける。 |
| 評価方法 | 何かを調べようとする意欲、目的を達成する過程での粘り強さ、できたレポートによって評価する。マスコミの他科目と同様に、4回欠席で不可、遅刻2回で1回欠席に扱いにします。 |
| 備考 | 大学で「情報」「メディア」を学んだことを前提に授業をすすめる。 |
| テキスト・教材・経費等 | 基本的には不要。必要に応じて指示する。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1-3回 学生の関心ある領域で、インタビューしたい人を選ぶ。その人に話が聞けるかどうか状況を調べ、判断する 第4-6回 対象が定まったら、何を聞くのかポイントを整理する。アポを取り、実際にインタビューをし、第一稿を完成させる 第7-8回 推敲と補足取材をする 第9-12回 推敲を重ね、第2、第3稿を完成させる 第13回 最終チェック 第14回 相手にお礼状とともに発送 第15回 振り返り |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、ペア・ワーク、グループ学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | 半期を見渡して、今の時期になすべきことは何かを常に意識しながら、自分のペースで作業を進めることができるような環境を整える |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|-------------|------|----|
| 時間割番号 | 7A2043 | 科目名 | 情報メディア特別演習Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 1 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7F1-6020 | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 情報メディア特別演習Ⅰを基礎にして、受講生が関心を持つ課題について、さらに深く探究します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 高度情報化社会の課題に対する認識を深めます。 |
| 到達目標 | 情報技術や情報管理に関する理論的関心が得られること。 |
| 評価方法 | 旺盛な研究心とそれによる成果物によって評価します。 |
| 備考 | Ⅱでは、修士論文を視野に入れた展開となります。 |
| テキスト・教材・経費等 | 受講生と相談の上、決定します。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 この授業のオリエンテーション 第2回 研究テーマについての討論 第3回 研究テーマについての確認 第4回 研究の枠組みと計画についての検討 第5回 研究の枠組みと計画の整備 第6回 研究の枠組みと計画の見直し・確定 第7回 資料収集法の検討 第8回 資料収集 第9回 資料の検討 第10回 資料の整理 第11回 研究の概要の検討 第12回 研究の概要の再検討 第13回 研究の概要についての発表と質疑応答 第14回 研究の概要についての見直し 第15回 研究の概要の確定 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 授業中に指示します。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A3001 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A3002 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A3003 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 各自の研究テーマに関連する先行研究の調査収集と整理を行います。さらに先行研究の検討を行い、各自の研究の観点や方向性を見出すことを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻の以下のディプロマポリシーに関連します。 「現代文化専攻いずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」 「自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果」 「知識基盤社会の発展に貢献できる実践力」 |
| 到達目標 | ・先行研究の調査収集と整理を行うことができるようになる。 ・見出した研究の観点や方向性に基づき、研究計画を立てて自主的に研究を進めることができるようになる。 |
| 評価方法 | 研究発表の準備(30%)、研究発表の内容(40%)、課題の提出(30%) |
| 備考 | 課題等のフィードバックは教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | とくに指定しません。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション-論文とは- 第2回 修士論文作成の意義 第3回 修士論文作成の方法 第4回 テーマの検討 第5回 研究史の検討①-文献の収集- 第6回 研究史の検討②-問題点の整理- 第7回 テーマの設定 第8回 資料の収集①-報告書- 第9回 資料の収集②-報告書以外の文献資料- 第10回 資料の整理①-地名表の作成- 第11回 資料の整理②-集成表の作成- 第12回 資料の分類 第13回 資料の分析 第14回 論文構成の検討 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 課題発見学習 課題解決学習 調査・実習 プレゼンテーション その他(ディベート) |
| 準備学習(予習・復習) | 先行研究の検討は自己の研究を進める上で大変重要です。あらかじめ代表的な先行研究の概要や意義、問題点等をまとめておき、授業時に発表・報告できるようにしてください。1回の授業につき、毎回4時間以上の予習・復習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A3004 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅰ・Ⅱ」に続き、中学校・高等学校の国語科に関して、実践研究の力量を高めるための授業です。「日本語文化特別演習Ⅱ」で取り組んだ内容の理論面の理解を深めていきます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 大学院現代文化研究科の目標の「高度な日本語運用能力と広い日本語文化の知見に基づく社会的適応力を持つ人材の育成」と関連する。 |
| 到達目標 | ・研究課題に即して理論書を検討し、研究課題を焦点化するとともに、その意義と範囲を明らかにすることができる。 ・設定した理論的枠組みに沿い、研究方法と計画を明らかにすることができる。 |
| 評価方法 | 演習発表(50%)とレポート(50%)によって評価します。 |
| 備考 | 取り組んだ課題について授業時にフィードバックを行います。その際に、ディスカッションを通して、表現や論理の一貫性ととも、必要に応じて関連する内容について指導します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 資料を配付します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 研究課題・方法・計画の確認 第2回 理論の検討(1) 史的概観 第3回 理論の検討(2) 学力論・目標論について 第4回 理論の検討(3) 指導課程論について 第5回 理論の検討(4) 教材論について 第6回 理論の検討(5) 指導過程論について 第7回 理論の検討(6) 指導方法論・指導技術について 第8回 問題の検討(1) 問題の所在 第9回 問題の検討(5) 研究課題の焦点化 第10回 研究方法の把握(1) 理論的枠組み・仮説の設定 第11回 研究方法の把握(2) 求められる実践とその分析方法 第12回 研究計画とその検討 第13回 研究の意義と範囲 第14回 研究構想発表 第15回 今後の課題 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・研究ノートを作成し、研究活動を毎日記録しましょう。 ・研究会や学会に積極的に参加しましょう。 ・計60時間程度以上取り組みましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A3005 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 各自の研究テーマに関連する先行研究の調査・収集と整理を行います。さらに先行研究の批判を通して、各自の研究の観点や方法を見出すことを目指します。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | 1) 先行研究の調査・収集と整理を行うことができる 2) 見出した研究の観点や方法に基づき、研究計画を立てて自主的に研究を進めることができる |
| 評価方法 | 研究テーマに基づく発表(50%) レポート(50%) |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特に指定しません。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 各自の研究テーマに関連する先行研究を広く調査・収集し、それらの整理を行います。そして重要な先行研究について批判的に読み取り、各自の研究に必要な観点や方法の獲得に努めます。その上で、修士論文の執筆に向けた研究計画を立て、自主的に研究が進められるよう、各自の研究テーマに基づく発表を行います。 第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマの検討 第3回 先行研究の調査・収集 第4回 先行研究の分析 第5回 研究テーマの設定 第6回 研究計画の検討 第7回 研究計画の決定 第8回 研究対象作品の分析① 第9回 調査に基づく口頭発表① 第10回 研究対象作品の分析② 第11回 調査に基づく口頭発表② 第12回 研究対象作品の分析③ 第13回 調査に基づく口頭発表③ 第14回 研究テーマの再検討 第15回 まとめ 今後の課題の確認 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | グループ学習、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 予習として、発表資料を作成するための準備作業、復習として、ディスカッションによる意見や添削をふまえた新たな調査や発表資料を修正する作業を行って、学びの定着を図ってください。15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 卒業論文の成果を活かし、さらに研究テーマに関する考察を深められるよう、積極的にいろいろな研究に目を向けてください。そこから自身の研究目的の明確化につなげていきましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A3006 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A3007 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 小林 洋介 | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 小説テキストを分析する作業を通して、文学研究にとって価値あるテーマとは何なのかを深く考察します。そのようにして得た知見に基づいて、修士論文全体のテーマを確定するとともに、各章のテーマも確定します。受講者は進捗度に応じて口頭発表を行い、修士論文の草稿(一部または全部)を提出することになります。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマ・ポリシーのうち、本授業で身につけることを目指す知識や能力は以下のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・文学研究にとって価値があり、修士の学位にふさわしい論文テーマを確定することができる。 ・文学テキストを多角的に分析し、その位置づけを文章によって論じることができる。 |
| 評価方法 | 口頭発表40%、レポート(口頭発表資料を兼ねる)40%、授業参加の積極性(質問・意見等の発言)20% |
| 備考 | 口頭発表の内容や、提出された修士論文草稿(一部または全部)について、授業内でコメントするとともに、修正すべき点を指摘します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特になし。ただし、各自の研究テーマに即して授業内でテキストや参考書を指示することがあります。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 研究経過報告(春期休暇中の研究の進展について) 第3回 多角的な作品論・テキスト論とは何か 第4回 同時代言説収集の方法 第5回 同時代言説収集の実践① 第6回 同時代言説収集の実践② 第7回 修士論文題目・構成の検討① 第8回 修士論文題目・構成の検討② 第9回 修士論文草稿の検討① 第10回 資料収集の実践 第11回 修士論文草稿の検討② 第12回 論文執筆の実践 第13回 修士論文草稿の検討③ 第14回 夏季休暇中の研究方針について 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | コメント・ペーパー、調査・実習、課題発見学習、課題解決学習 |
| 準備学習(予習・復習) | ・修士論文の執筆を進めてください。 ・授業内容に即して資料の収集と分析を行ってください。 【授業外学習】合計60時間以上 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A3008 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅱ」に引き続き、各自のテーマに基づいて、研究発表を行います。各自の研究を進めつつ、先行研究を熟読することで日本語研究の中での位置づけを考えながら、研究を推敲してもらいます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 関連するディプロマポリシーは次の3点です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | (1)日本語史上の課題を自ら発見し、それを明らかにする目的と意義を論理的に説明できる。 (2)課題解決に必要な情報を収集し、批判的・分析的に整理・考察することができる。 (3)資料や先行研究から得た成果を再構成し、分かりやすく資料化したり発表したりできる。 |
| 評価方法 | 授業参加状況・課題への取り組み方・発表と質疑によって総合的に判断します。 |
| 備考 | 発表準備を課題とし、授業内でフィードバックを行います。専門外の授業や研究会に出たり、学会に参加することは研究にとって大きな刺激です。積極的に学問の場に参加してください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業内で適宜紹介します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 受講生による発表1 第3回 受講生による発表2 第4回 受講生による発表3 第5回 受講生による発表4 第6回 受講生による発表5 第7回 受講生による発表6 第8回 受講生による発表7 第9回 受講生による発表8 第10回 受講生による発表9 第11回 受講生による発表10 第12回 受講生による発表11 第13回 受講生による発表12 第14回 受講生による発表13 第15回 受講生による発表14 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 各自の興味に基づいて、先行研究や資料の読み込みを行ってください。学会参加を含め、最新の知見を常に取り入れるよう、アンテナを張っておきましょう。また、授業内の討議によって得た視点を、積極的に反映させてください。合計60時間以上をかけて、授業の準備学習を行いましょ。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A3009 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅲ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 前期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6060 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A4001 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A4002 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A4003 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻の以下のディプロマポリシーに関連します。 「現代文化専攻いずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能」 「自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果」 「知識基盤社会の発展に貢献できる実践力」 |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A4004 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅲ」に続き、中学校・高等学校の国語科に関して、実践研究の力量を高めるための授業です。「日本語文化特別演習Ⅱ」で取り組んだ内容について実践面を発展させ、二年間の研究を論文にまとめます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 大学院現代文化研究科の目標の「高度な日本語運用能力と広い日本語文化の知見に基づく社会的適応力を持つ人材の育成」と関連する。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 研究仮説に即して実践を構想し実施するとともに、実践記録を分析して仮説を検証することができる。 二年間の研究成果を論文にまとめることができる。 |
| 評価方法 | 演習発表(50%)とレポート(50%)によって評価します。 |
| 備考 | 取り組んだ課題について授業時にフィードバックを行います。その際に、ディスカッションを通して、表現や論理の一貫性ととも、必要に応じて関連する内容について指導します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 資料を配付します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション 研究課題・方法・計画の確認 第2回 実践の構想(1) 目標と評価 第3回 実践の構想(2) 内容と方法 第4回 実践とその検討(1) 反応分析 第5回 実践とその検討(2) 実践の評価・仮説の検証 第6回 中間発表 第7回 論文の記述(1) 理論的枠組み・定義 第8回 論文の記述(2) 先行研究 第9回 論文の記述(3) 実践 第10回 論文の記述(4) 考察 第11回 論文の記述(5) 成果と意義・課題 第12回 論文要旨の作成 第13回 論文の発表 資料の構成 第14回 論文の発表 プレゼンテーションの工夫 第15回 二年間の研究の成果と課題 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | <ul style="list-style-type: none"> 研究ノートを作成し、研究活動を毎日記録しましょう。 研究会や学会に積極的に参加しましょう。 計60時間程度以上取り組みましょう。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|----|-----|---|
| 時間割番号 | 7A4005 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | — | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | | |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|---|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 以下の現代文化専攻のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | ・課題等提出物に対するフィードバックの方法 レポートの返却を希望する場合は、担当教員の研究室を訪ねてください。 |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|----------------------------------|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | 15回の授業を通して、計60時間以上の自学自習を行ってください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A4006 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | | |
|--------|-----------|-----|------------|------|---|------|----|
| 時間割番号 | 7A4007 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | 小林 洋介 | | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | | | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 各自の研究を進める過程で直面した問題について検討し、修士論文を完成させます。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 現代文化専攻のディプロマ・ポリシーのうち、本授業で身につけることを目指す知識や能力は以下のとおりです。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | ・先行研究を網羅的に読み、その成果を踏まえつつ、独自の学術的知見を提示することができる。 ・文学テキストの価値を他者に向けて発信することができる。 |
| 評価方法 | 口頭発表(40%)、レポート(40%)、授業内課題(20%) |
| 備考 | 口頭発表の内容や、提出された修士論文草稿(一部または全部)について、授業内でコメントするとともに、修正すべき点を指摘します。 |
| テキスト・教材・経費等 | 特になし。ただし、各自の研究テーマに即して授業内でテキストや参考書を指示することがあります。 |

| | |
|------------------|---|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 夏季休暇中の研究成果について 第3回 (口頭発表)中間発表会に向けて① 第4回 (口頭発表)中間発表会に向けて② 第5回 修士論文草稿の修正点について 第6回 論文執筆の実践① 第7回 修士論文構成の再検討 第8回 論文執筆の実践② 第9回 (口頭発表)修士論文草稿について① 第10回 (口頭発表)修士論文草稿について② 第11回 (口頭発表)修士論文草稿について③ 第12回 修士論文作成の実践 第13回 修士論文要旨について 第14回 (口頭発表)修士論文発表会に向けて 第15回 まとめ |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション |
| 準備学習(予習・復習) | ・修士論文の執筆を進めてください。 ・授業内容に即して資料の収集と分析を行ってください。 【授業外学習】合計120時間以上 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A4008 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | 「日本語文化特別演習Ⅲ」に引き続き、各自のテーマに基づいて、研究発表を行います。各自の研究を進めつつ、先行研究を熟読することで日本語研究の中での位置づけを考えながら、研究を推敲していきましょう。 |
| ディプロマポリシーとの関連 | 関連するディプロマポリシーは次の3点です。 1 現代文化専攻のいずれかの研究領域に関する高度な専門的知識・技能 2 自ら設定した研究課題に対する学位修士にふさわしい研究成果 3 知識基盤社会の発展に貢献できる実践力 |
| 到達目標 | (1)日本語史上の課題を自ら発見し、それを明らかにする目的と意義を論理的に説明できる。 (2)課題解決に必要な情報を収集し、批判的・分析的に整理・考察することができる。 (3)資料や先行研究から得た成果を再構成し、分かりやすく資料化したり発表したりできる。 |
| 評価方法 | 授業参加状況・課題への取り組み方・発表と質疑によって総合的に判断します。 |
| 備考 | 発表準備を課題とし、授業内でフィードバックを行います。 専門外の授業や研究会に出たり、学会に参加することは研究にとって大きな刺激です。積極的に学問の場に参加してください。 |
| テキスト・教材・経費等 | 授業内で適宜紹介します。 |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス 第2回 受講生による発表1 第3回 受講生による発表2 第4回 受講生による発表3 第5回 受講生による発表4 第6回 受講生による発表5 第7回 受講生による発表6 第8回 受講生による発表7 第9回 受講生による発表8 第10回 受講生による発表9 第11回 受講生による発表10 第12回 受講生による発表11 第13回 受講生による発表12 第14回 受講生による発表13 第15回 受講生による発表14 |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | 調査・実習、課題発見学習、課題解決学習、プレゼンテーション、自己省察 |
| 準備学習(予習・復習) | 各自の興味に基づいて、先行研究や資料の読み込みを行ってください。学会参加を含め、最新の知見を常に取り入れるよう、アンテナを張っておきましょう。また、授業内の討議によって得た視点を、積極的に修士論文に反映させてください。予習・復習をあわせて、合計60時間以上の準備時間をかけてください。 |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |

| | | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|------|-----|---|
| 時間割番号 | 7A4009 | 科目名 | 日本語文化特別演習Ⅳ | | 単位数 | 2 |
| 担当者 | - | | | | | |
| 開講学期 | 2019年度 後期 | 開講年次 | 2 | 授業方法 | 演習 | |
| ナンバリング | 7D1-6070 | | | | | |

| | |
|----------------------|--|
| コア・アクティブ・ラーニング科目群 | |
| コア・アクティブ・ラーニングのキーワード | |

| | |
|---------------|--|
| 概要 | |
| ディプロマポリシーとの関連 | |
| 到達目標 | |
| 評価方法 | |
| 備考 | |
| テキスト・教材・経費等 | |

| | |
|------------------|--|
| 授業計画 | |
| アクティブ・ラーニングの授業形態 | |
| 準備学習(予習・復習) | |

| | |
|------------|--|
| 免許・資格 | |
| 免許・資格の科目区分 | |